

令和4年度第1回 四街道市みんなで地域づくり推進委員会 次第

日時：令和4年8月19日（金）14時00分～

- 1 委嘱状交付
- 2 経営企画部長あいさつ
- 3 開 会
- 4 委員長及び副委員長選出
- 5 会議の公開・非公開
- 6 議 題
 - (1) 地域づくりコーディネーター業務について
 - (2) みんなで地域づくり事業提案制度（令和3年度実施）事業ふりかえりに
ついて
 - (3) その他
- 7 閉 会

令和3年度 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体：特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

【詳細 月次報告まとめ】

1. 施設利用状況

内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
来所者数 (人)	156	163	176	146	77	51	158	237	151	107	97	147	1666
1日あたり来所者数 (人)	8	9	9	8	5	3	8	14	9	7	6	7	8
ミーティングスペース 利用団体 (団体)	17	14	11	7	5	7	14	14	12	9	5	15	130
ミーティングスペース 利用人数 (人)	87	76	64	45	18	27	83	77	65	59	24	55	680
新着情報 (件)	31	34	34	38	35	30	31	39	24	39	27	46	408
相談件数 (件)	7	11	6	2	4	4	10	8	5	7	1	6	71
開館日(日)	19	18	20	18	16	17	19	17	17	16	16	21	214
休館日に主催事業等を実施した日	0	0	2	0	0	0	0	2	1	1	0	0	6
※来場者(参加者)のうちオンライン参加	6	0	9	4	0	14	20	14	28	14	0	0	117

オープン日：220日（通常オープン日214日、休館日などに講座・企画事業などを実施した日6日）

※上記のほか、イベント開催時の参加人数として、6月12日大きなテーブル530人、11月27日ちばユニバーサル農業フェスタ1700人(出展団体等含む)

センターの運営体制と新型コロナウイルス感染拡大防止の対応について

- ・今年度より、開館時間が火曜日～金曜日、第1・3土曜日の9時～17時に変更になった。また、新型コロナウイルスの影響による開館時間の変更があり、ホームページ「重要なお知らせ」、Facebook ページ、センター入口ドア掲示、留守番電話などでお知らせした。
- ・緊急事態宣言の期間（8月2日～31日）は、火曜日～金曜日9：00～17：00開館、土曜日は休館、みんなのテーブル（ミーティングスペース）は、期間中、一般の利用をなしとした。
- ・緊急事態宣言期間が9月1日～12日、更に30日まで宣言の延長 火曜日～金曜日休館で10：00～14：00電話対応のみ、土曜日は休館とした。
- ・緊急事態宣言が10月1日から解除され、開館時間が通常にもどり窓口業務を再開、みんなのテーブルは、密にならないよう注意して利用することとした。
- ・新型コロナウイルスまん延防止等重点措置は、1月21日から2月13日、次に3月6日に延長、更に3月21日まで再延長された。引き続き、感染予防に注意して開館した。
- ・新型コロナの感染拡大状況により、準備した講座等の中止および延期、再企画やオンラインを活用などへの変更を行い、それぞれ連絡・調整や広報などの対応を行った。

2. 主なセンター事業と業務

ア、地域課題への取り組みのプロデュースに関すること

イ、地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげる。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートする。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施する。

市の施策や制度、活動事例などから地域課題を学び、解決について考え合う場を継続してつくり、地域づくりの取り組みが始められるようサポートすることについて

地域づくりサロン みんなのコト ～まちの出来事を自分ゴトに～

「みんなで地域づくり」は、まちの出来事を自分のコトとして考えることから始まることから、「災害支援のコト」「認知症のコト」「子どもたちのコト」について、市民に投げかけ一緒に考え合う場をつくる。

(1) 災害支援のコト

趣旨・目的 災害が起きた時、障害がある人の困難を共有し支援活動につなげる

連携・協力依頼 危機管理室、社会福祉課、障害者支援課、社会福祉協議会

日時・会場	内容	参加※
5月20日(木) 10:00～11:30 文化センター203	<p>交流会 みんなで災害支援を考えよう～</p> <p>障害のある人の支援①</p> <p>1. 問題提起 「障害のある人の支援に必要なこと」 視覚障害者総合支援センターちば 川崎弘所長 ワークショップ四街道 サービス管理責任者 後藤友紀さん</p> <p>2. 意見交換「災害が起きた時に支援できることを考える」 障害当事者から：複数の障害があるために一人では移動できない、なにかあっても在宅避難をしようと思う。 支援施設から：当事者への支援の充実を／そもそも、避難所がどういう場所なのか分からない 市民から：高齢者を含め、支援を必要としている人が地域にはたくさんいるはず。どんな支援を必要とする人がいるか、狭い範囲でのネットワークが必要 [参加者アンケートより]</p> <p>1. 参考になった・大変参考になった 93.4%、 2. 新たな気づきや取り組みたいと思ったことがあった 93.3% だれでも安心できる「避難所を作ろう」といったミーティングの必要性や、健常者中心の支援計画が多いので、障害のある人(高齢者)の視点を取り入れることが必要。</p>	36人 (6人) ※()参加者のうちのスタッフ等の人数(以下同じ)
9月17日(金) →延期(連絡) 11月10日(水) 13:30-16:30 文化センター206	<p>障害のある人の支援②「福祉避難所って？」</p> <p>四街道市では、障害者が避難する所として11か所の“福祉避難所”があるが「誰がどの様な状況でどの様に利用できるのか」など、ほとんど詳しい情報を得ていないので、障害者が不安なく過ごせる福祉避難所について情報を共有する。</p> <p>1. 今、なぜ？福祉避難所なのか 前回の振り返りと市内の福祉避難所の状況 2. 講演「福祉避難所のリアル」 (社福)福祉楽団 飯田大輔さん 3. グループワーク「障害者のための避難所を考える」 4. グループごとの発表 ワークショップで出された意見(4つに大別される)</p> <p>①福祉避難所の情報が無いことによる意見 ②福祉避難所までの安全確保</p>	52人 (9人) (うちオンライン参加1人)

	<p>③支援のマンパワーの確保 ④地域の理解と地域との交流</p> <p>[参加者アンケートより]</p> <p>○飯田さんのお話のなかで心に残ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てご自身の体験ということで「生の声」という印象。「大切なのは人とのつながり」 / 「福祉楽団が学んだ未来への備え 30」「自家発電につなげておきたい15のモノ」 <p>○もっと知りたかったことや深めたかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に指定されているが、高齢者以外にも障害のある人もいて、どのような方を受け入れられるのか/福祉避難所に地域住民がどのように関わられるのか <p>○地域で実践できそうな事がみつかったか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは設備を整え安心して受け入れられる状況をつくっていききたい/福祉施設も日常的に地域の中に入り知っていただく。福祉施設だからといって受け身ではなく、地域の中で災害時何ができるか、強みを考えていくことができそう <p>※出された意見や疑問を、後日、市の福祉部門の担当者とヒアリングという形で意見交換する場を持った</p> <p>ブログ掲載 http://www.mimnade.org/blog/2021/12/post-450.shtml</p> <p>※当日取材 ケーブルネット 296「ふるさとチャンネル」</p> <p>放送 12月1日～15日、1月1日～9日 14:00～14:30 21:00～21:30</p>	
--	--	--

成果と今後の課題

福祉施設の事例に基づく問題提起を受け、福祉避難所を開設した経験に基づく、まさに「福祉避難所のリアル」を聴くことができ理解が深まった。

市内の福祉避難所の情報が少ないのが第一の課題と考えられることから、行政や施設と協力して広報活動を進めたい。災害時の障害者(要支援者)支援は、地域の協力が欠かせないことから、地域への理解促進と支援の輪づくりへの働き掛けを進めて行く。また、災害支援ネットワークによる支援のつながりの輪を広める中で、市の関係各部署との連携・協働、災害VC(社会福祉協議会)、地域包括支援センター、指定避難所運営委員会、福祉施設など関係機関との連携・協働を進める必要がある。

(2) 認知症のコト

趣旨・目的

認知症になってもケアを受けるだけでなく、人として役割を持ちながら地域に馴染んでいける地域、または認知症の人を支えられる地域をどのようにつくっていくか地域の人たちと考える。

連携・協力依頼 高齢者支援課、地域包括支援センター、(市外)千葉市認知症疾患医療センター

<p>①6月22日(火)</p> <p>11:20～12:40</p> <p>わろうべの里 わ らうびんぐホー ル</p>	<p>①学習会「認知症を知ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の基礎知識について 遠藤祐子さん(地域包括支援センター) 「認知症ケアパス」、市の制度や取り組み、地域の資源について ・事例 認知症の方を介護する家族から ・家族や地域の人に向けた具体的アドバイス 石川萌乃さん(千葉市認知症疾患医療センター) ・質問・感想シェア <p>介護の体験談に説得力があった/同じ体験もあり共感でき安心した/当事者の話が聞けるのは貴重な体験だった</p>	<p>①21人 (8人)</p>
---	---	----------------------

<p>②7月30日(金) 13:30~16:00 文化センター206</p>	<p>②講演会「認知症の人をサポートするには」 認知症になっても地域で楽しく生活するためにはどうしたらよいか。 講師 和田行男さん (一社)「注文をまちがえる料理店」代表理事 交流会 自分たちでできること、やってみたいことを話し合おう。 〔アンケートより〕 良かったところ：自立支援の原点を知ることができた/差別のない世界を大切にしている/自分の暮らす街で、認知症になってもずっと暮らせるようにするには何をすればよいか考えさせられた 活動に活かせること：関心を持って、受け止めること/隣近所の人との交流を積極的にする/認知症になってもちょっとしたお手伝いでいきいきとその人らしい生活ができる</p>	<p>21人 (講師2人、スタッフ6人)</p>
<p>③8月10日(火) ➡中止 9月28日(火) ➡中止 10月8日(金) 19:00~20:30 オンライン</p>	<p>③「和田さん講演会 振り返りの会・おしゃべり会」 ○認知症に触れた経験などから、認知症についてどのように感じているか ・重症度や環境で支援の違いはあるか/自分が認知症になるのはこわいか/親が認知症になった時に誰にも話せなかったという人が多くいる/まだまだ認知症という病気が特別な病気という認識が強い ○今後、地域でどんなことがあったらよいか ・認知症が日常の延長線上に存在していると思えるようになったらいい/「助けて」を気軽に言える関係づくりができたらいいい ・認知症の方の気持ちがわからないので、疑似体験会やVR体験があったら参加したい/イベントなどで参加者を集めて認知症を知ってもらおう場をつくる</p>	<p>8人 (6人)</p>

成果と今後の課題

- ①実際に認知症を抱える方を介護している家族より話を聞ける貴重な機会となった。そのことにより参加者は本人やその家族の日常に触れることができ、自分に何ができるのか考えるきっかけとなった。
- ②認知症ケアの第一人者である和田さんの話を聞くことで、参加者が認知症について難しく考えることなく、ご近所に普段から関心を持つこと、挨拶することなど、人が普通の生活を送ることの大切さが理解できた。
- ③地域包括支援センターや認知症疾患医療センターとのつながりづくりができた。今後、特に地域包括支援センターとの連携に関しては具体的に進めていきたい。
- ④地域包括支援センターへの相談につながるきっかけが2件提供できた。

(3) 子どもたちのコト

趣旨・目的 令和2年5月に制定された四街道市の子ども条例を知る

連携・協力依頼 子育て支援課

<p>6月29日(火) 10:00~11:30 みんなで地域づくりセンター</p>	<p>学習会「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう 1. (開催前)策定の目的と経緯 (子育て支援課にヒアリング) 2. 子ども条例を知ろう 読み合わせ 3. 参加者によるディスカッション 子どもの発言を保障する居場所の確保が大事/「子どもの権利」に改めて文章で触れることで、「知ってるよ」と思う反面、ほんとに必要とされている子に「届くのかな?」という、条例策定と現状でのずれを少し感じた。</p>	<p>9人 (4人)</p>
---	---	--------------------

成果と課題

四街道市の独自の子ども条例を「知る」という目的はクリアできた。ただ、活用されていない事実も明らか

になった。条例が発効された今、この「子どもの権利条例」をどう実現していくのか、まさに、「市民」「市」「学校」の連携が問われていると感じられた。

自治会情報交換会を開き、地域の高齢化の中での困りごとや自治会の運営について話し合う場をつくることについて

・コロナ禍の状況が続く中で、リアル会合の設定がままならず、オンラインでの開催も検討したが課題が多く実現できず。コロナの状況が改善された11月に自治振興課にも開催について打診し、自治会役員任期が残り少ないため次年度新役員体制の下での開催することとした。

四街道市地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ、関係機関と協力することについて

・地域支え合い推進会議にコーディネーターが参加し関係機関と協力した。
・高齢者支援に関連したこととして、「認知症のコト」の講座開催において、地域包括支援センターとの意見交換が進められた。また地域福祉活動計画策定においてコーディネーターが委員として参加した。

市内在住外国人について支援団体と連携し、災害時の支援などについて検討することについて

・災害支援について、国際交流協会が「みんなで災害支援ネットワーク」メンバーとして加入し連携を図っている。災害支援学習会では、災害時における外国人の支援について、国際交流協会から市内の外国籍の人の状況について報告された。
・他市小学校から異文化共生の授業準備について相談を受け、国際交流協会につなぎ対応した。

子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援ができることを目指すことについて

・子どもサポートプロジェクト

目的 市内の子ども支援団体のネットワークとして、具体的に、場があることでできる支援、場がなくてもできる支援をして、市内の子どもと子育て世代をサポートする。

ミーティング(オンラインを活用) 6月6日、7月9日、11月5日、1月18日

主に地域の子ども達の様子やそれぞれの団体の活動状況等の情報共有。1月のミーティングにおいて、次年度子どもサポートプロジェクトは、場がある支援として「RAKUまある」場がなくてもできる支援として、子ども支援団体の情報交換や情報提供をするネットワークとしていくことが話し合われた。

中高生のオープンスペース「RAKUまある」毎月第3火曜日 16:00~20:00

4月、5月、6月、7月、8月(9月は緊急事態宣言のため中止)10月、11月、12月、1月、2月、3月開催
ちばユニバーサル農業フェスタに出展 昨年に引き続き活動のアピールを行った。

制服リユースの活動(実施団体 よつかいどう制服リユース)

1月のミーティングでの子どもサポートプロジェクトメンバーからの提案に賛同者が集まり、市内中学校などの制服リユースを始めた。現段階では回収のみで、販売は準備が整ってから行う。センターは、回収場所の提供とFacebookでの広報の協力をした。

回収場所 みんなで地域づくりセンター(令和4年4月末まで)、子育てサポートととて、プレーパークどんぐりの森、ひみつのおしゃれ工房、蔵の図書館、四街道あそびっこ基地

・第9回子ども支援団体交流会・円卓会議

趣旨・目的

感染症予防をしながらの生活における子どもたちの様子の変化について行政担当課よりお話を伺い、地域に求められている子ども支援について考える。

<p>7月9日(金) 10:00~12:00 文化センター 203号室</p>	<p>「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」 情報提供</p> <p>1. 「小中学生の変化」教育委員会指導課長 飯村典秀さん 地域でできること：コロナによる風評被害の防止。子どもたちの見守り、挨拶、学校への理解をいただきたい。</p> <p>2. 「乳幼児親子の変化」四街道市保健センター保健師 田中茉莉さん 地域でできること：孤立しがちな親子が増えていると思われるが、検診等ですべてのケースを把握することが難しい。地域や民生委員さんなどの声掛け、検診等で地域の居場所を紹介することで必要な支援につながればよい。</p> <p>3. 子どもアンケート報告 子どもサポートプロジェクト 「コロナ禍での子どもの声」子どもたちが実際に感じていること、放課後はどのように過ごしているのかなど (調査期間：6月12日~25日 方法：オンラインフォーム 回答28人)</p> <p>4. 質疑応答 5. 交流会 [参加団体] 四街道レクリエーション協会、旭ヶ丘みらい食堂、ファミリーホーム「実感デイズ」、子育てサポートてとて、よつかいどう mamamo、四街道市社協、旭中地区社協、千代田中地区社協、西中地区社協、四街道プレーパークどんぐりの森、四街道子どもネットワーク、四街道市子供会育成連合会、子どもサポートプロジェクト、愛国学園高校、教育委員会、保健センター [参加者感想] 子どもたちの状況がよくわかった/他の団体と交流を深めることができた/新たなつながりが増えた/コロナ禍での親子との関わり方、遊びや話を聞くことへ役立てたい</p>	<p>22人 (3人)</p>
---	---	---------------------

成果と今後の課題

講師のお話や意見交換から、子どもたちの状況や地域に求められることが分かった。参加団体は、子どもに関わる13団体あり、その中に、市政だよりや「みんなで」に同封した案内文書から新規参加が3団体あった。新たな参加を今後の活動の広がりにつなげていきたい。

・子ども見守りサポーター養成講座

趣旨・目的 子ども支援のあり方や視点などを学び、地域で子どもを見守る大人を増やす

<p>12月11日(土) 13:00-15:00 オンライン</p>	<p>講演「北欧のとりにくみに学ぶ ~コドモ×オトナ×対話でつくる新しい社会~」 講師 佐藤裕紀さん 新潟医療福祉大学講師(専門は比較教育学、生涯学習、四街道子ども記者クラブ設立時代代表、四街道市出身) 内容 デンマークの教育制度、生涯学習などの取り組みから、日本における社会的包摂を目指した教育(生涯学習)へのヒントなど グループディスカッション、質疑応答 [参加者アンケートより] 印象に残ったキーワード ・上手く行かなくても大丈夫という安心が、挑戦やイノベーションの土台となる ・多層的な学びの場 ・自分で決めるしかけづくり ・エフタスコーレ、ホイスコーレ、生産学校(デンマークでの教育制度) ・生きた言葉による対話の重要性 ・支える側、支えられる側で分けない、立場を固定化しない社会的包摂</p>	<p>オンライ ン 28人 (6人)</p>
--	---	------------------------------------

	・マイノリティー ・ヒューマンライブラリー	
1月9日(土) 10:00-11:00 オンライン	「北欧のとりくみに学ぶ」アフタートーク会 (12月の講座で参加者から、複数の参加希望があり企画) ・模擬ヒューマンライブラリー、意見交換 デンマークのとりくみから得たヒントをそれぞれの活動に生かし、どんなことをやってみたいか、活発な情報交換が行われた。	オンライン 14人(5人)

成果と今後の課題

市外・県外も含め、子どもの居場所や学童保育、不登校支援、福祉や教育に関わる人など多方面から参加があり、社会的包摂をキーワードに北欧の取り組みを学び、日本で子ども支援について意見交換することができた。この視点を今後の子ども支援を考えるうえで参考にしていきたい。

災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進める（平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指す）ことについて

・災害支援ネットワークづくり

趣旨・目的 人と人、地域、団体が互いに関心を持ち、災害が起こっても支えあえる関係を築く
 連携・協力依頼 危機管理室

11月16日(火) 13:30~16:30 文化センター 203	第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会 「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」 1. 講演「常総災害からの復興と自主防災の取り組み」 講師 横田 能洋さん（たすけあいセンター「JUNTOS」代表） ・被災者の困りごと・たすけあいセンターJUNTOSの活動内容・水害で明らかになった地域の課題・避難所や福祉避難所へのヒント・自主防災についてなど 2. ワークショップ「支援のカタチ」「つながり」について(自己紹介・意見交換) [アンケート結果より] (紙面回答 17、オンライン回答 2) 【1】 大変参考になった (14) 参考になった (3) 【2】 とくに印象に残った点 (複数回答) 他団体との連携が重要 (14) 災害時には広報や通信手段の確立していることが大変重要 (11) 外国人に対する支援の内容と方法 (11) 平時からの互いに顔の見える関係づくりが大切 (11) など 【3】 活動において災害支援に関してのあらたな意識づけや行動が見つかったか 日ごろから近所や関連団体と良い関係を作っておく/広報・通信手段の強化が特に大切/災害時の初期対応についてのフローチャートの作成 【4】 ほかの団体と連携してやってみようと思った支援 自治会や民児協などとの連携/ペットの講習会/自治会、社協、自治振興課、レクリエーション協会、公民館やわろうべの里/鹿放ヶ丘ふれあいセンター/避難所運営委員会と関係団体や機関との交流と連携	30人 (6人)
---	--	-------------

成果と今後の課題

学習会でより具体的な被災者への支援の方法が見えてきたと同時に、地域の人と人とのつながりの重要性への理解がさらに深まった。参加者の意見などで、LINEを中心とした情報発信、地区ごとに「どこに誰と」避難するのかというフローチャートづくり、Facebookの活用などの意見が出されている。今後、災害支援に関する具体的な目的のために活動するチームなどができることを期待したい。

《災害支援について進めたこと》

- ・災害支援ネットワーク名簿作成 36団体・人（連絡先 メールアドレス含む）メンバーに送付

- ・災害支援ネットワークのメンバーの連絡ツールとして、LINE オープンチャットのグループをつくり、登録を呼びかけ(現在 23 人)、3 月中に起きた地震などの時、グループ参加者での情報共有などに活用を始めた。
 - ・千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議において、コーディネーターが、センターの災害支援のネットワークづくりについて事例報告を行った。(12 月 22 日オンライン開催)
- テーマ「災害支援ネットワーク その時。連携の力で街を支えよう」(10 分報告+質疑 5 分)
- ・千葉県ボランティアセンター・市民活動支援センター合同研修会にコーディネーター 3 人が参加し、「三者連携について」(千葉県危機管理部防災政策課)の講義のあと、「災害時の連携の必要性和平時における取組」のワークショップで、市の社会福祉課、政策推進課、社会福祉協議会と意見交換をした。(1 月 21 日(金)オンライン開催、市ごとのサテライトとしてセンターのテーブルで参加)
- 今回はやむを得ず参加されなかったが、今後、危機管理室も含めて市の担当部署、社会福祉協議会(災害 VC)とセンターで、災害時の連携について話し合う場を重ねていくことが必要と思われる。

アートを活かしたまちづくりについて、具体的なアクションに向けてアイデアを出し合い実施することについて

・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり 第 2 回

趣旨・目的

美術や創作活動を通して、アートを暮らしの中で感じられる文化的なまちづくりを目指す

11 月 13 日(土) 10:00-12:00 わろうべの里 わろーびんぐ ほーる	ワークショップ「まちにとけこむアート活動～アクションプランを考える」 ○昨年開催した第 1 回「四街道でのアートを活かしたまちづくり」でアイデアの種を出しあい、第 2 回はプランの具体化と実施体制などのアクションプランを考える。 ・講師 こまちだたまおさん(御領徳子さん) たまあーと創作工房 代表 ・立体で考えるプランニング (舞台をイメージし「主役」「背景」「脇役」「観客」などを考えて書き込む) ・各自のプランの紹介 [アンケート結果から] 絵画が好きなの自分でもアートは敷居が高いと感じてしまうが、頭を柔らかくして生活に取り入れたいという思いが強くなった/自分のプランが具体的になった/参加者のプランを聞いて新たなイメージがわいた/思いがある仲間と知り合えた	14 人 (3 人)
--	---	---------------

関連事項(講座開催後の状況)

- 昨年度 10 月の第 1 回講座以降、講座の参加団体の関連でアートイベントや展示の企画・出展など続き、まちにアートが広がりとけこんでいる様子が見られる。
- ・子育てサポートとして 森アート「みどりのまどからみえるもの」令和 2 年 11 月
 - ・NPO 法人はちみつ 「Honey come!! 2021」はちみつ はじめての さくひんてん 開催
令和 3 年 11 月 30 日(火)～12 月 5 日(日) 四街道市民ギャラリー
 展覧会 うみのもりの玉手箱(千葉県障害者芸術活動支援事業)へ大漁旗の作品を出品 令和 4 年 3 月
 - ・NPO 法人みのり福祉会 「みたことがないアート展」開催
令和 4 年 1 月 佐倉市美術館 3 階市民ギャラリー 4 月 四街道市市民ギャラリー

「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指す

- ・講座「福祉」×「ものづくり」×「地域づくり」地域とつながるものづくり 商品の価値を伝えるデザイン

趣旨・目的

福祉団体がものづくりを通して地域とつながるために、デザインで商品の価値を伝えることを学び、思いを

込めてつくった商品を 自信を持って販売できるようなきっかけをつくる。(大きなテーブルに向けて開催)

<p>4月17日(土) 13:00-15:00 (センターで オンライン)</p>	<p>①講演 山本友美さん(社福) いぶき福祉会 ブランドマネージャー ②ワークショップ 参加団体の商品についてみんなで一緒に考えよう! ・NPO 法人はちみつ、青空協同組合の商品について、講師のアドバイスを受けた。 〔講座アンケートから〕大変満足4、満足2 (回答数6) 「収穫だな」と思ったこと: 情報発信の大切さと、改めて自分たちの作っている製品の良さや可能性に気付かせていただいた/作品のみの宣伝ではなく使い方を提案していくことは、頭になかったことだったので勉強になった 感想: 沢山のヒントを頂き感謝しきれません…成果がありましたらご報告させて頂きたい/障がい者が作ったのか、可哀想だから買ってやろう、ではなく、素敵な作品を障がいのある人が作ったのだと言われるほどのものを作っていきたい</p>	<p>10人 (4人)</p>
---	--	---------------------

その後の展開

- ・4月20日「大きなテーブル事前説明会」で、他の福祉団体等にも講座の内容を共有し、ものづくりの工夫や情報発信の点で活かしていくことについて意見交換した。実際に「大きなテーブル」や「ユニバーサル農業フェスタ」で、商品、レイアウトやポップなどに工夫が見られた。
- ・「いぶき福祉会のカレンダー」と「はちみつの木工品(台座)」でコラボ商品が開発され、2施設を通して販売され、四街道でもユニバーサル農業フェスタで販売された。

・第18回福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル

目的 障害のある人の社会参加、就労支援、自立支援の一環として、四街道市内や近隣の福祉施設の取り組みや商品を紹介し、販売経路を拡大するだけでなく、地域の団体や市民と交流しつながりをつくる。

日時 6月12日(土) 10:30~14:30 10:20~開会式、14:00~出店者交流会

会場 文化センター前広場(屋外・テント使用) 飲食なし、火気使用なし

主催 みんなで地域づくりセンター(市内福祉団体等が実行委員となり、コロナ対策等運営にあたった)

共催 四街道市地域振興財団 協力 障害者支援課

コロナ対策 マスク、検温・記名、アルコール消毒(各団体1名担当、受付は駐車場側と図書館側2か所)

参加団体 14団体(福祉9団体、協賛5団体)

〔福祉団体〕(社福)千葉県視覚障害者福祉協会ワークショップ四街道、NPO 法人はちみつ生活介護はちみつ、NPO 法人希望 地域活動支援センターどんぐり工房、子育てサポートてとて、NPO 法人みのり福祉会 青空協同組合、(同法人)障がい者就労・生活さぽーとピース、生活クラブ風の村 とんぼ舎さくら、就労定着支援事業所 スマイルハート、(社福)高柳福祉会 たけのこ

〔協賛団体〕よつグルメ研究会、よつかいどう和棉ばたけ、森林ボランティア 四街道フォレスト、ベーぐるきっちゃん、ブルーベリーのピンコロ農園

広報 チラシ配布4000枚、市政だより5月15日号、当日の団体広報物(チラシ・ポスター・のぼりなど)

開催結果

- ・参加530人(出店団体含む) 幅広い年齢層の来場者があった 売上420,860円
- ・商品販売のレイアウトや看板に工夫がみられ、来場者や団体同士とのコミュニケーションをとる姿が見られた/久しぶりのイベントで、施設スタッフ・利用者さんが「販売する楽しさ」を味わえた
〔出展団体アンケート結果〕大変良かった9、良かった2 よかったとは言えない1
団体にとってのメリット: よく売れ、利用者さんが積極的に販売に参加できていた/活動のアピールができた/商品を知ってもらいきっかけ/他の団体と交流が持てた。

その後 Facebookによるネットワークをつくり、情報交換や団体同士のコラボを目指すこととなった。

・次年度 第20回「大きなテーブル」開催準備

3月10日(木)実行委員会で、これまでのセンター主催から、実行委員会主催とすることが決まった。

実行委員会 実行委員長 金室修平さん(はちみつ) はちみつ、ワークショップ四街道、どんぐり工房、ピース、青空協同組合、てとて、ベーぐるきっちん (センターは事務局)

日時 令和4年5月21日(土) 10:00~14:00 開催場所 文化センター前広場(テント使用)

ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートすることについて

・ちばユニバーサル農業フェスタ2021in 四街道

趣旨・目的 千葉県内の農地を守ることを目的として、「みんなで関わる農業=ユニバーサル農業」の考えを広め、出会いの場を提供する。昨年に引き続き、コロナ禍の影響で販売経路を絶たれた農業関係、福祉団体に焦点を絞り、農業の大切さを伝え、福祉団体の活動と製品をご紹介します。

日時 11月27日(土) 10:00~14:00 (開会式9:50)

会場 四街道市文化センター前広場(屋外・少雨決行) 晴天で午後風が強かった

主催 ちばユニバーサル農業フェスタ2021in 四街道実行委員会(事務局:地域創造ネットワークちば)

協力 みんなで地域づくりセンター、四街道市政策推進課、自治振興課、産業振興課
四街道市地域振興財団、NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター

後援 千葉県、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会、千葉県生活協同組合連合会
ちば県民活動PR月間賛同行事

予算 協賛金(3団体)と出展料、出展団体から当日寄付

コロナ対策 屋外開催、飲食なし、受付で消毒・健康チェックシート記入、マスク着用、ブースでは遮蔽版

広報 チラシ(制作 NPO法人はちみつ)13000部(小学校全児童、自治会回覧、ポスティング、各団体配布)
市政だより、千葉あそび(秋号)、Facebook・ブログ、新聞掲載2社

出展団体 24ブース(28団体)+文化センター入口前展示(政策推進課、自治振興課)

来場者数 1700人 売上高合計1,083,480円(来場者・売上合計とも昨年度の約2倍)

[出展団体アンケートから]回答数24 フェスタ全体の感想:大変よかった19、まあまあよかった5

団体にとってのメリットは?:地域とのつながり/他団体との交流/活動のPR/コロナ禍でイベントがない中、来た人が楽しいと言ってくれた。

活動する上での課題は?:販路の拡大9、運営スタッフ6、農業・栽培技術4、その他3

成果と課題(振り返りから)

- ・来場者が多く活動の紹介できた。地域社会との交流ができ、利用者さんも自主的に参加できた。
- ・対面販売は1年ぶり以上で今回、販売でき利用者全員がお客さんへの「ありがとう」を言うことができた。
- ・実行委員会で取り決め、昨年来コロナの対策をして開催し、団体同士の交流つながりができてきた。
- ・次年度、かなえたい社会に向けてどういうフェスタとするか、また運営上必要な改善点について検討する。

ウ、地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

・情報誌「みんなで」 市民活動団体、県内他市支援センターに送付、市役所、公民館、図書館、駅、協力いただいている店舗等で配架、ホームページに掲載している。自治会回覧は11月から再開。

28号 6月2000部発行 そのときのために(テーマは災害支援)

29号 9月2000部発行 捨てない暮らしのその先に

30号 12月4500部発行 コロナ禍でも「今、できること」

31号 3月4500部発行 地域への「思い」をカタチに

コロナ禍の中で、紙面が、団体の活動や人と人とのつながり、まちづくりへの関心が途絶えることなく継

続するきっかけになること、改めて地域のための活動が重要であることを意識してもらい、これから再スタートを切る団体にも勇気やヒントを与えることを願って各号を編集した。

・ **Facebook** センター事業・イベント・開館時間変更等のお知らせ・報告、団体の活動紹介などを掲載した。
(いいね! 昨年度末 762 → 今年度 3 月末 804 年間投稿数 134 件)

・ **ホームページ** イベント・講座のお知らせ、団体情報、ブログ、「みんなで」などを掲載しました。また、トップページに「みんなでカレンダー」を置き、ホームページを訪れる楽しみをつくとともに、四街道に関わる人の「みんなで地域づくり」を表現した。(テーマは、よろこび)

・ **ブログ** 講座・イベントなどの報告、「みんなで」もう一つのストーリー 等 年間 20 件

・ **団体情報** をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげた。(掲載年度末 76 団体)

・ センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫した。

・ 四街道駅の社会福祉協議会チラシラックを年間 5 枠使用させていただき、「みんなで」、講座チラシ、子どもの居場所マップなどを配架した。

・ 「みんなで地域づくり写真展」を 12 月 7 日 (火) ~ 13 日 (月) そごう千葉店地階ギャラリー(千葉市)で実施した。センター及び市の取り組みを市外の人にも知っていただく機会として毎年実施している。

掲示内容：センター紹介、「みんなで」表紙、災害支援(講座の様子)、子ども見守りサポーター養成講座ポスター、ちばユニバーサル農業フェスタ、政策推進課みんなで地域づくり係から事業紹介

・ 福島県からの避難者のために、県から届けられる『福島民報』『福島民友』をセンター入り口に配架した。

・ オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めた。

・ 講座やミーティングでのオンラインの活用および、講座前の ZOOM 講習会企画・実施

・ 地区での ZOOM による会議支援を実施

・ 地区社協での高齢者の孤立を防ぐためのスマホ・タブレット講座の講師紹介などの相談対応・調整

・ スマホ・タブレット、パソコン、ZOOM 使用に関する相談対応

エ、地域づくりを担う主体からの相談に関すること

年間相談件数 71 件 (平成 30 年度 59 件、令和元年度 69 件、令和 2 年度 46 件)

相談者：市民団体 51、事業者 9、行政・関係機関 11 受付・対応：来館 44、電話 26、メール 1

成果と課題

今年度は、市外も含めて様々なところから地域の情報の問合せや団体の運営などの相談が入り、相談件数は直近 3 年と比較して多くなった。今後も相談受付について広報をして、地域づくりに役立てたい。

内容の分類	件数	主な相談内容
地域の情報の問合せ	21	子ども食堂にお米を寄付したい／(市外) 学習障害がある高 2 の子の拡大教科書を入手したい。拡大写本の連絡先を教えて／活動 PR とグッズの販売をしたいのでマルシェ等を教えて／(ケアマネージャー) 要介護 1 認知症のある人が徒歩または自転車でいられる居場所は？／(病院ソーシャルワーカー) 14 歳の患者の学習支援をしてくれる人、グループを教えて／(市担当課) 市内在住 15 歳の知的障害のある人が参加できるイベントがあるか／(消費生活センター) 市民が衣類を大量に寄付したい。回収している団体を紹介して
市民活動団体の運営	17	三つ折りパンフレットの作り方・入稿の仕方を教えてほしい／イベント告知や活動の広報について／団体の規約の修正について／活動に対して助成金や補助金を受けられないか／コロナで販売場所がなくなり会員も元気をなくしている。販売できる所はないか／高齢化と人材不足で活動の継続が難しい。仲間集めに協力してもらいたい

IT・パソコン	13	(スマホ・タブレット講座参加者) スマホを購入したので操作方法を教えてください/パソコンにスマートフォンの写真を取り込みたい/地域の支え合いチームで ZOOM 会議を開きたい/ZOOM の使い方を教えてください/オンライン・コミュニケーション講座の講師選定やスタッフ人数を教えてください
地域の課題・活性化	6	コラボ四街道に応募について/(市外) 異文化共生の授業「四街道におけるアフガニスタン人」の教材作成をしたいので、当事者や地域の人を紹介し相談に乗ってほしい
活動への参加	3	高校 1 年のお嬢さんのボランティア体験ができる場所を知りたい/子ども食堂があればボランティアで参加したい
市政に関すること	2	(市役所担当課)「四街道食べきり協力店」について「食べきり」に積極的に関わっているところを紹介してほしい
法人の立上げ・所轄庁への報告	1	NPO 法人の理事になり印鑑を持ってくるように言われたが、印鑑証明は必要ないか
その他	8	真竹を使った樋の作り方を紹介したい/在日オマーン人留学生が作成した冊子を公的な場所に置きたい

オ、上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

助成金活用セミナー 「地域に活動をつくりだす」

趣旨・目的

1. 「コラボ四街道」制度や民間助成金の情報を共有し、活用するきっかけとする。
2. 地域づくり活動を行う団体が必要な資金を調達し、新たな活動をつくりだすための学びあいの場とする。

①9月7日(火) 延期 →10月5日(火) 13:30~16:00 文化センター203 オンライン併用	第1回 助成金を活用して活動を充実させ、地域の課題解決につながった事例報告 1. 事例報告 ①休眠預金コロナ緊急支援助成プログラム ちばのWA 地域づくり基金 「キッチンカーでGO!」どこでも子ども食堂&暮らしのサポート NPO 法人ワーカーズコレクティブういず(柏市) 北田恵子さん ②2020年度みんなで地域づくり事業提案制度(コラボ四街道)採択事業 旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業 四街道みらい会 長谷川 晃一さん 2. 「コラボ四街道」制度説明 政策推進課 橋本さん 3. その他助成制度の資料提供 [アンケート結果] 大変満足1、満足6、普通1、不明1 よかったこと: 様々な助成金について情報を得ることが出来た/今現在助成金を利用されている方の課題について話を聞くことができた/幼稚園の子どもがいるので、お迎えの時間にかぶってしまうが、オンラインということで時間の節約ができた。 改善した方がよいところ: コラボ制度等の説明が多い方がよかった 1	参加 28人 オンライン 10人 会場 18人 (5人)
事前オンライン講習会 10月1日 10:00-12:00		オンライン講習会 参加 1人

②10月5日(火) →10月20日(水) 13:00~15:30	第2回 一歩踏み出すためにー事業計画をたてる ・「コラボ四街道」申請書の書き方のポイントについて 4つの団体が、コラボ四街道に向けそれぞれの思いを企画提案書に書き込み、事業の公益性とその必要性について発表したが、今年度の申請にはならなかった。もう少し時間をかけて勉強してから申請したいとのこと。	9人 オンライン2人 会場7人 (4人)
③個別相談	随時	
④2月4日(金) 13:30~14:30	プレプレゼン (コラボ四街道の申請団体対象プレゼン練習会) 参加 ひみつのおしゃれ工房	6人 (4人)
2月10日(木) 13:30~14:30	プレプレゼン2回目 団体からの希望により実施 参加 ひみつのおしゃれ工房	7人 (5人)

※コロナの緊急事態宣言などの影響で開催日が遅れたが、オンラインを併用して開催することができた。しかし参加した人や団体でも、活動自体の自粛や新たな活動の立ち上げを控える動きがあったように思われる。今後の課題として、これまでセンターを利用したことのない人で、地域課題の解決を考えている人達にどのように伝えるかを考える必要がある。

コラボ四街道採択団体 サポート

1月21日(金) 10:00~12:00	コラボ四街道採択団体交流会と決算書の書き方についての説明会 4団体5人	11人 (6人)
-------------------------	---	-------------

※コラボ四街道(令和4年度実施)プレゼンテーションは、2月14日新型コロナウイルス感染症対策のため、傍聴上限2名として実施された(提案団体 総合公園の植生調査の会、ひみつのおしゃれ工房、四街道みらい会)

○上記の情勢金活用セミナーのほか、各テーマに沿って、講座やワークショップ等を開催した(詳細は前述)

- ・地域づくりサロン みんなのコト~まちの出来事を自分ゴトに~
「災害支援のコト」全2回、「認知症のコト」全3回、「子どもたちのコト」1回
- ・子ども支援団体交流会・円卓会議1回
- ・子ども見守りサポーター養成講座 1回+アフタートーク1回
- ・「みんなで災害支援ネットワーク」学習会1回
- ・地域づくりサロン 誰でも参加できるアートでまちづくり ワークショップ1回
- ・講座 地域とつながるものづくり 商品の価値を伝えるデザイン 1回

カ、その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・センターのミーティングスペースの利用にあたっては、利用者名簿記入、健康状態をチェック、手洗い、アルコール消毒、マスク着用、着席の際に間隔をあけることなど、感染予防に配慮した。
(8月、9月は、緊急事態宣言期間により一般の利用受付は行わなかった)

令和3年度四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告（写真編）

災害支援のコト「みんなで災害支援を考えよう～障害のある人の支援①

～障害のある人の支援② 福祉避難所って？



認知症のコト①学習会「認知症を知ろう」



子どもたちのコト 学習会
「みんなが笑顔のまち子ども条例」を知ろう



②講演会「認知症の人をサポートするには」



子どもサポートプロジェクト
・ユニバーサル農業フェスタ出展 ・RAKU まある
↓(リサイクル絵本販売)



第9回子ども支援団体交流会・円卓会議
「コロナ禍での子ども達、乳幼児親子の様子」



プロジェクトのメンバーから
学生服リユースの会立ち上げ

子ども見守りサポーター養成講座
講演「北欧のとりくみに学ぶ
～コードモ×オトナ×対話でつくる新しい社会～」



第3回「みんなで災害支援ネットワーク」学習会
「常総水害に学ぶ災害支援のあり方」



地域づくりサロン まちにとけこむアート活動
第2回「アクションプランを考える」



助成金活用セミナー「地域に活動をつくりだす」第1回
助成金を活用して地域の課題解決につながった事例報告



第2回
コラボ四街道申請書の書き方



講座 福祉×ものづくり×地域づくり
地域とつながるものづくり ～商品の価値を伝えるデザイン



福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」



終了後、出展団体交流会

ちばユニバーサル農業フェスタ 2021in 四街道



令和4年度 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業計画

四街道市みんなで地域づくりセンター

受託団体 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

代表理事 牧野 昌子

業務責任者 勝又恵里子

ア.地域課題への取組みのプロデュースに関することイ.地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

○市民の意見交換や情報交換の場「地域づくりサロン」や地域づくりをテーマとした講座、相談への対応などから、地域課題への取組みにつなげます。

○市民、団体、事業者や、またその地域づくりの活動が、分野や業種を超えてつながり、行政、関係機関とも連携・協働して、地域の課題解決ができるようコーディネートします。

○市民の主体的な地域づくりへの参加を促し、多様な人や団体が地域づくりに参加する企画を実施します。

・地域に出て新しい人や団体に出会い、地域の状況や課題の把握と人材の発掘を行い、地域づくりの取り組みが始められるようサポートします。

コラボ推進プロジェクト

現在実践している地域づくり活動をピックアップして地区ごとに表にまとめ見える化する

「地域おしゃべり会／ヒアリング」を開催し、情報や意見をまとめ、他主体や団体につなげる

4/13 鹿放ヶ丘ふれあいセンター 4/20NPO 法人はちみつ

6/7 四街道市民のためのバレエ実行委員会

7/12 やまなし月見の里 7/14 子育てサポートてとて 7/20 ちょこっとクラブ

地域課題の解決策を話し合い、コラボ四街道や他の助成金を活用した活動につなげる

(コラボ塾の開催 1限目 9/8、2限目 9/22、3限目 10/6、4限目 10/20、プレプレゼン 1/26)

また、コラボ四街道実施事業のサポートを行います。(令和4年度実施事業)

・自治会情報交換会を開き、地域の高齢化の中での困りごとや自治会の運営について話し合う場をつくります。(コロナの状況下で開催が難しい場合は、オンラインでの会合を試行)

オンライン講座 (6/16 2回、6/18)

オンラインを使った情報交換会 6/30

・四街道市地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ、関係機関と協力します。

・認知症になっても安心な地域づくりを進めるため、市民が介護や認知症の知識を深め介護事業所の人がつながりをつくるための学習会や講演会を開きます。

市民対象のクロスロードゲーム

介護事業所の人がつながるためのゲームを使った学習会

講演会「認知症になっても共に暮らせるまちづくり」

・市内在住外国人との交流や災害時の支援などについて、支援団体や関係機関と連携して進めます。

・子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援団体のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援ができることを目指します。

子ども見守りサポーター養成講座 7/13 みんなで子育て講演会「学校に行きたくないと言われたら」

市内外の子ども支援の活動の見学会（9～10月頃）おひさま文庫（東金市）

子ども支援交流会・円卓会議（12月）

子どもサポートプロジェクトは、子ども支援の情報交換するネットワークとしていく。

・災害時のセンターの役割を考え、災害支援ネットワークづくりを進めます（平常時から困ったときに声を掛け合えることを目指します）

みんなで災害支援ネットワーク学習会 ネットワークメンバーが互いを知りつながりをつくる

5/31 ワークショップ「遊んで学ぶ」 LINE オープンチャットのグループを活用

災害支援に関する学習会(10月)

情報発信・連絡など 災害時を想定したシミュレーション

・アートを活かしたまちづくりを進めます。（まちの中にある身近なアートに注目することで、地域に愛着が湧くまちづくりを進めます）

みんなでアート四街道 2022 ①6/24 情報交換会 ②7/27 ワークショップ「アートでお祭りを彩ろう」

・「大きなテーブル」は福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民とのつながりをつくることを目指します。大きなテーブルは、春は5月と、秋はユニバーサル農業フェスタで開催します。

今年から実行委員会主催とし、より自主的な運営を目指します。

福祉施設・紹介販売フェア「大きなテーブル」5/21

・ちばユニバーサル農業フェスタを地域の連携を進める事業としてコーディネートします。

ちばユニバーサル農業フェスタ 2022in 四街道 11/26(予定) (実行委員会主催)

ウ.地域づくりの情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

・情報誌「みんなで」を年4回発行し、より多くの市民に地域づくりの情報を届ける工夫をします。

6月、9月、12月、3月 4500～5000部発行予定（自治会回覧を含む）

・ホームページ、ブログ、メール、Facebook、ツイッター、インスタグラムなど、対象により効果的な方法を選択して発信をすします。ホームページをリニューアルし、より効果的な情報発信を目指します。

・ホームページのトップページに「みんなでカレンダープロジェクト」を置きます。

・団体基本情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげます。

・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫します。

・オンラインによる新しい情報発信やコミュニケーションの方法の活用を進めます。

エ.地域づくりを担う主体からの相談に関すること

・相談は常時受付け、オンライン活用についても検討します。会計相談は日程調整をして対応します。

・市役所の各担当課および関係機関と連携して相談対応にあたります。

・市の施策・制度や地域課題などについて学び、相談対応力を高めます。また、団体運営に関する相談に対応できるようにするため、コーディネーター等が研修会などで学ぶ機会を持ちます。

オ.上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

- ・地域に出て新しい人や団体に出会い、地域の状況や課題の把握と人材の発掘を行い、地域課題の解決策を話し合い、コラボ四街道や他の助成金の活用した活動につなげます。(コラボ塾の開催)
- ・市民活動団体の運営力を高める講座、スキルアップ・ワンポイント講座などを開催します。
市民活動マネジメント講座 ①6/7 ②7/5 ③9/6 以下第1火曜 ~3月(全9回予定)
- ・「みんなで×〇〇する」など、身近なテーマで参加者が交流し学び合う機会をつくります。
みんなで×捨てない暮らし (SDGsについて考える)
①6/21 着物で受け継ぐ先人のこころ
②10/12 ごみを減らそう~生ごみたい肥をみんなでつくろう(主催:廃棄物対策課、センター:協力)
- ・地域づくりに関する講座、見学会などを企画実施します。

カ.その他上記遂行のために必要な事項に関すること

- ・視察・職場体験、インターンシップなどの受入れを行い、地域の学校との連携を図ります。
愛国学園大学「大学生も地域とつながろう!プロジェクト」(年間)協力
淑徳大学インターンシップ
- ・「気軽に来られる、来てよかったセンター」を目指して、センターの運営を工夫します。
- ・コロナ禍での新たな課題に対して、団体や関係機関とも連携してコーディネートを進めます。

令和4年度 みんなで地域づくりセンター業務スケジュール ★市政だより掲載予定

業務	地域課題への取組みのプロデュース 地域づくりを担う主体のネットワーク							各種講習会			情報の収集、把握、発信				相 談 対 応	オ ン ラ イ ン 支 援	そ の 他		
	分野・業種を超えた地域資源のつながり・連携 多様な人や団体が地域づくりに参加する企画							地域課題を 知って解決 を考える	スキル アップ		効果的な方法を選択								
令和4 事業	自治 会情 報交 換会	支え 合い ／ 高 齢 者 支 援	認知 症の コ ト	子ど も 支 援 ネ ッ ト ワ ー ク	ア ー ト を 活 か し た ま ち づ く り	大 き な テ ー ブ ル ／ ユ ニ バ ー サ ル 農 業 フ ェ ス タ (福 祉 か ら 地 域 づ く り)	災 害 支 援 ネ ッ ト ワ ー ク セ ン タ ー の 災 害 時 連 絡 体 制	コ ラ ボ 推 進 プ ロ ジ ェ ク ト	ス キ ル ア ッ プ ・ ワ ン ポ イ ン ト 講 座	み ん な で × 〇 〇 す る	情 報 誌 「 み ん な で 」	情 報 配 布 ／ セ ン タ ー 掲 示	団 体 情 報	HP◎ / プ ロ グ 〇 F B △ イ ン ス タ ・ ツ イ ッ タ ー▼	み ん な で カ レ ン ダ ー	随 時 ・ 会 計 は 日 程 調 整	ZOO M 支 援 な ど	・ イ ン タ ー シ ッ プ 受 入	
4月		(支 え 合 い 推 進 会 議)	(市 民 対 象 学 習 会 ／ 事 業 所 対 象 学 習 会)		(ま ち の な か の 身 近 な ア ー ト に 注 目)		ネ ッ ト ワ ー ク つ な が り つ く り ／ セ ン タ ー 支 援 体 制 づ く り	(地 区 ご と 資 源 マ ッ ピ ン グ) 地 域 ヒ ア リ ン グ 4/13, 4/20				団 体 情 報 更 新 掲 載	ホ ー ム ペ ー ジ 改 修 準 備	掲 載 更 新			各 事 で 必 要 に 応 じ サ ポ ー ト	愛 国 学 園 大 学 (大 学 生 も 地 域 と つ な が ろ う)	
5月	オ ン ラ イ ン 講 座 6/16, 18					★5/1 5/21大 き な テ ー ブ ル	5/31ワ ー ク シ ョ ッ プ 「 遊 ん で 学 ぶ 」	地 域 づ く り お し ゃ べ り 会 ／ ヒ ア リ ン グ											
6月	情 報 交 換 会 6/30			★ 6/15			み ん な で ア ー ト 2022 ① 6/24 情 報 交 換	6/7	市 民 活 動 マ ネ ジ メ ン ト 講 座 ①6/7	6/21捨 て な い 暮 ら し (着 物 リ メ イ ク)	32号 発 行	情 報 配 布					(自 治 会)	6/2 1ち ば の WA	
7月				7/13 子 ど も 見 守 り サ ポ ー タ ー 養 成 講 座	② 7/27 ワ ー ク シ ョ ッ プ			7/12, 7/14, 7/20	②7/5										7/2 2淑 徳 大 学
8月			★ 8/15					★8/1						ホ ー ム ペ ー ジ 改 修					
9月			9/20 認 知 症 講 演 会	★9/1				★9/15	コ ラ ボ 塾 1限9/8 2限9/22	③9/6	33号 発 行	情 報 配 布							
10月				子 ど も 支 援 見 学 会				災 害 支 援 学 習 会	3限10/6 4限10/20	④	10/12ご み を 減 ら そ う (生 ご み か ら 堆 肥)								
11月				★ 11/15		★11/15 11/26ユ ニ バ ー サ ル 農 業 フ ェ ス タ				⑤									
12月				子 ど も 支 援 交 流 会 ・ 円 卓 会 議						⑥		34号 発 行	情 報 配 布 ■そ ご う 展 示						
1月								プ レ プ レ ゼ ン 1/26		⑦									
2月										⑧									2/2 5市 民 大 学
3月										⑨	35号 発 行	情 報 配 布							

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）実施事業一覧（令和3年度実施）

	団体名 (代表者氏名)	事業名	事業概要	新規 継続		事業 部門			交付額	担当課
				新	継	拠	地	19		
1	子ども商店街 実行委員会 (千脇 みゆき)	子ども商店街 2021	中学生から大学生の青少年が企画・運営し、商店のみなさんから仕入れなどの協力を得ながら交流する他、小学生とまちや商店の仕組みを学ぶ。産業まつりと同日程で「子ども商店街」を開催し、産業の振興にも貢献する。		②		○		146,000	産業振興課 スポーツ青少年課
2	食を通して四街道を元気にする会 (島田 佳代)	地産地消で美味しいものめぐり	地場生産物の生産場所や販売所、市内レストラン、福祉関係や市内地域活動団体の食堂やレストランを網羅した四街道市内の「ぐるめまっぷ」更新版を作成し、四街道の飲食店を案内する。		②		○		318,000	産業振興課
3	里 kara (木村 慎太郎)	Y・Y・Countryside ～自然・焚火・音楽のある里山で多世代交流～	Y・Y・NOWSON で定期的に里山一般開放イベントを開催し、里山の魅力を広く発信するとともに、住民同士の交流を活性化させる。また、里山整備イベントを開催することにより、里山の保全も行う。	○			○		452,000	
4	みんなでつつみこむあたたか地域づくりプロジェクト あたたかおひさんぽ実行委員会 (大和久 智子)	あたたかおひさんぽマップづくりを通じたつながりプロジェクト	誰でも気軽に参加できるおさんぽ会を開催。おさんぽ会参加者と子育て情報 Web サイトを作成することで、人と人、人と場が「つながる」きっかけを作る。子どもと親を取り巻く環境をよりよくし、誰もが安心して暮らせるあたたかな地域を目指す。	○			○		415,000	子育て支援課 障害者支援課
5	よつかいどう野外保育さとのたね (岸本 梓)	里山子育てと温かな繋がりを地域に届けるプロジェクト	自然と人、自然と子育てを結ぶミニパンフレット・冊子を作成し、オープンイベント・里山を活用した世代間交流を目的としたワークショップの中で活用していく。四街道の里山と自然の中での子育ての魅力、人と人との温かい繋がりがりや多様性の尊重を広く地域に伝えていく。	○			○		500,000	社会福祉課 子育て支援課 保育課 社会教育課
6	ひみつのおしゃれ工房 (佐々木 和枝)	ひみつのおしゃれ工房リメイクファブリックスタートアップ事業	外で働く事が出来ない事情のある方々に内職をお願いして古着をアップサイクルし、パッチワークなどの生地にしたリメイクファブリックを事業者などに広めていく。	○			○		500,000	
7	四街道みらい会 (長谷川 晃一)	四街道市旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業	旭ヶ丘・みそら地区に居住する小学生と、その家族を対象として安価に食を提供することによって、子育て支援、食育、地域活性化の場、孤立孤食の減少の改善を目的とする。また、プロの料理人が調理に携わり、飲食店が主催することで食の魅力を感じてもらうことも目的とする。	○			○		500,000	産業振興課
									地:2,831,000 拠: 0	

【新規・継続】新…新規事業、継…継続事業（○数字は本制度への申請回数） / 【事業部門】拠…拠点づくり部門、地…地域づくり部門、19…アンダー19部門

コメントシート

委員氏名：

	団体名	コメント
1	子ども商店街 実行委員会	
2	食を通して四街道を 元気にする会	
3	里kara	
4	みんなでつつみこむあたたか 地域づくりプロジェクト あたたかおひさんぽ 実行委員会	
5	四街道野外保育さとのたね	
6	ひみつのおしゃれ工房	
7	四街道みらい会	

事業報告書類

子ども商店街 実行委員会

コラボ四街道まとめ

団体名	子ども商店街実行委員会
事業名	子ども商店街 2021

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	[担当課]産業振興課、スポーツ青少年課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>1) 「子ども商店街」は、子どもたちが企画・運営する「仮想のまち」です。産業まつりと同時開催することで、地域にあるお店から子どもたち自身が仕入れをして「商店の仕組み（経済）」を学び、運営する中で「まちの仕組み（行政）」を学ぶ事と、異年齢交流を通じた青少年の健全な育成を目的としました。</p> <p>今回はコロナ対応として、中学生以上の学生スタッフは薬剤師さんから感染対策を学び、会場で子ども同士が密にならないように、お仕事紹介所の機能は使用しない仕組みを考えて準備会に入りました。</p> <p>8月には新型コロナの影響で産業まつりが中止となったため、9月の子どもスタッフ募集開始の時に、当初予定日の11月13日(土)、14日(日)はオンラインによる子ども商店街の開催に向けた活動にシフト。本番は3月に延期、中央小学校校庭で行うように予定変更しました。これも第6波でまん延防止等重点措置期間が延長され、準備会を行う予定の体育館が使用できず、本番は中止となりました。</p> <p>3月は商店からの仕入れを視察に変更、まちの中の個人商店と大型スーパーとの違いを考え、販売する上でどのような工夫をしているのか、次回子ども商店街を開催した時に、どんな商品を販売したいか、などのテーマを決めて視察し、最終日の3月21日はオンラインで他のスタッフに発表しました。</p> <p>2) 四街道市子ども会育成連合会（四子連）所属のリーダースクラブが中心となって企画・運営を行いました。 【内容】 子どもスタッフ会議の前後の時間を使って企画内容を検討、準備(15回 内オンライン11回)、振り返り(2回) 【会場】 中央小体育館、和良比区自治会館やすらぎの家、オンライン会議</p> <p>3) 子どもスタッフ会議の開催 【内容】 こどものまちとは何か、子ども商店街の準備、交流等（12回） 【会場】 中央小体育館、和良比区自治会館やすらぎの家、オンライン会議</p> <p>4) 市内商店の視察と発表 【内容】 子どもスタッフ、学生スタッフによる商店への視察2日間 9店舗の予定でしたが、7店舗に変更</p>
-------------	---

	5) 他地区の「こどものまち」の視察 【内容】現地開催は近隣では行われなかったため、オンライン開催した佐倉市の「オンラインぷちさくら・秋」9月20日開催に子どもスタッフ4名参加			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	<p>◆準備会と本番</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月には新型コロナの影響で産業まつりが中止となったため、当初予定日の11月13日(土)、14日(日)はオンラインによる子ども商店街の開催に変更。本番は3月に中央小学校校庭で行うように変更しました。 ・新型コロナウイルスの感染拡大によりまん延防止等重点措置期間が延長され、3月の本番も中止となりました。 ・商店からの仕入れは行わず視察に変更し、本番開催予定の3月21日はスタッフだけで視察の発表（オンライン開催）を行いました。 ・体育館での準備会を2回にし、オンラインでの話し合いに変更しました。また、3月に延期したこともあり、準備会8回⇒16回（内オンライン11回）、振り返り1回⇒2回と回数が増えました。子どもたちの意欲などの持続を考え、本番開催予定の11月13日(土)、14日(日)は一般参加を募集して、オンライン子ども商店街を開催しました。オンライン開催各日午前、午後各1回1時間30分 計4回開催 ・3月は視察と視察の振り返り及び発表会を行いました。 <p>◆決算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン活用と現地での本番開催中止のため参加費、材料費、保険代が変更になりました。 <p>【収入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加費（保険代含む）は子どもスタッフのみになりました。 <p>【支出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料費は仕入れ準備のための食品関係の試食のみに留まったため金額が少額になりました。 ・保険代はオンラインを利用し会場の使用回数が減ったため減額しました。 			
事業費総額	予算	449,000円	決算	229,724円
補助金額	予算	201,000円	決算	146,000円

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載		
	<p>◆参加者数</p> <p>2019年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者は1日目：188人 2日目：279人 合計467人（内大人12人）子どもの入場者目標450人は達成しました。 ・18歳までのこどもスタッフの合計27人 リーダークラブ6人、小学生スタッフ16人、高校生スタッフ5人 ・大人スタッフ31人 実行委員6名の他、リーダークラブの大学生と四街道市子ども会育成連合会 		

の育成者、地域子ども会の保護者や一般ボランティアが参加しました。内、3名が実行委員会に参加してくださることになりました。

2020年度 中止

2021年度

- ・18歳までのこどもスタッフの合計36人
リーダーズクラブの中高校生11人、小学生21人、中学生4人
- ・前回開催は2年前でしたが、参加して楽しかったから参加しました。という子どもたちも多く、やってみたいという参加意欲は全体的に高かったです。
- ・大人スタッフ14人
実行委員6名の他、リーダーズクラブの大学生と四子連の育成者、一般ボランティアが参加しました。
- ・準備会ではリーダーズクラブが子どもたちをまとめ、子ども商店街開催に向けての意欲は常に高く、目的の一つである異年齢交流は成功したと言えます。
- ・11月オンライン商店街参加人数

	13AM	13PM	14AM	14PM	合計
小学生スタッフ	11	8	12	11	42
学生スタッフ	4	8	10	8	30
大人スタッフ	5	8	7	5	25
一般参加の子ども	2	9	5	7	23
参加者合計	22	33	34	31	120

◆商店での仕入れや視察からの成果

2019年度

- ・仕入れ協力店舗等は10箇所、その内6箇所に、子どもスタッフ全員が分担して直接仕入れに行きました。
視察後は子どもたちの意欲が高くなりました。

2021年度

- ・視察協力は7店舗（予定9店舗）に、子どもスタッフが分担して視察に行きました。前回2019年度開催時に仕入れを行った店舗からの協力で、視察はスムーズに行えました。また、休店日にお店を開ける。子どもへの説明の準備、などとても協力的に関わってくれました。
子どもたちにお店に買い物に来たことがあるか聞いたところ、初めてという子がほとんどであったことから、地元にあるお店を知るきっかけにもなりました。

◆オンライン会議の利用

準備会、リハーサル、オンライン子ども商店街、視察発表会、計22回の内オンライン利用は16回でした。

子どもスタッフのオンライン利用は14回あったため、接続や見守りで子どもスタッフの保護者の皆さまにはサポートをしていただきました。

日に日に子どもたちはオンラインにも慣れて、どうしたら画面だけで相手に伝えることができるか工夫が見られました。ブレイクアウトルームへの入退室もスムーズになり、操作面でも上達しました。また、オンラインの利点として、

	<p>親戚の家や旅行先から参加するなど、遠方からの参加もありました。これは後半に現われた現象で、子どもたちが交流を重ねたことで参加しやすい環境ができたとも考えます。</p>
事業の課題、担当課との関わり等	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p>
	<p>[事業の課題]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響による対策は取ってはいましたが、予想以上に会場が使用できないなど予定が二転三転してしまいました。大きな会場を使わない方法も検討が必要だと考えます。 ・産業まつりの中止で産業振興課、産業まつり実行委員会、商工会とのつながりは希薄になってしまいました。継続的なつながりができるようにしていきたい。 <p>[担当課や他団体との関わり]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策推進課：小中学校への案内チラシの配布 今年度は各所への後援依頼ができませんでしたが、政策推進課の協力で案内チラシの配布ができました。 ・四街道市子ども会育成連合会：リーダースクラブ、育成者の協力、オンライン会議アプリ ZOOM の借用 子どもと年齢の近いリーダースクラブの青年たちが中心に活動することで、子どもたちも親しみやすかったようです。 また、SKYP や GoogleMeet、等いろいろなオンライン会議アプリを利用しましたが、四子連から ZOOM をお借りしたことで時間制約なく事業を進めることができました。ブレイクアウトルームの利用は11月のオンライン子ども商店街ではとても役立ちました。 ・市内小中学校：案内の配布、活動場所の提供 <p>以下は産業まつり中止のため、ご挨拶まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業振興課：産業まつり実行委員会との調整 ・産業まつり実行委員会：産業まつり開催母体（開催場所の提供） ・商工会：会場費の免除

今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度は中止し、2021年度も現地開催はできませんでしたが、準備会を重ねることで、「子ども商店街」を知ってもらえる機会が持てたので、2022年度開催につながることに期待が持てました。 ・準備会を多く行わないとできない形を取ってきましたが、オンライン会議を利用することで、会場を使って集まる回数は減らせることが分かりました。また、回数を重ねるごとに子どもたちはデバイスの操作が上手くなり、意見も増えていきましたので、これからも併用していく方法を取り入れたい。 ・これまで実行委員会形式で行ってきましたが、実績を元に協力団体の四子連が

	<p>主催することになりました。実行委員も継続の意欲を示し、四子連の理事に加わる事で人材確保ができたほか、活動場所の確保がしやすくなりましたので、多様な展開が期待できます。</p> <p>・地域の商店のみなさんとも実績を積むことで連携がスムーズになりましたので、仕入れ協力の商店を増やしていきます。</p>
--	---

担当課のふりかえり	(産業振興課)
	第45回産業まつりを開催しなかったことから、令和3年度中の関わりはありませんでした。
	(スポーツ青少年課)
	会場の借用について、学校側との調整を行い実施に向け支援を行った。

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
----------------------------	--

※添付資料

- ・ 報告書 1部

事業報告書類

食を通して四街道を元気にする会

コラボ四街道まとめ

団体名	食を通して四街道を元気にする会
事業名	地産地消で美味しいものめぐり

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	産業振興課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>2021年4月、5月に2021年版ぐるめまっぷ掲載店舗よりアンケートを回収し評価のまとめから問題点、課題を抽出しその改善対策を検討した。同時に2022年版に掲載予定店舗および生産農家のリストアップと掲載可否評価を行い、掲載予定店舗を選出した。担当地域ごとに店舗、生産農家を訪問し掲載への準備を開始した。アンケート結果より課題とされた誤字等の記載内容の誤りや記載内容の統一化、見やすい文字についての検討を進めた。生産農家取材では、生産農家毎に代表とする生産物時期に合わせての日程調整を行った。8月、新規に掲載ページを予定する「四街道 朝市の会」取材訪問した。朝市会メンバーの出店の様子の写真撮影、季節ごとの取り扱い生産物の調査等を行った。生産農家の生産物を購入できるスーパー等を地図上にマークし、地産地消推進への一助を企画した。また、市内生産物への理解を進める目的で、産業振興課農政係の協力を得ながら市内の生産農家が生産する野菜や果物のカレンダー表を作成した。掲載継続店舗、生産農家への情報及び掲載写真変更等の有無の確認を経て11月、掲載店舗78件、生産農家29件、販売所8件の2022版原稿の確定、デザインおよび印刷製本を依頼した。12月、製本品の納品を受け、市役所をはじめ公共施設10か所、掲載店舗及び生産農家へ配布を行った。（配布先公共施設：市役所、市役所第二庁舎公民館3か所、四街道駅、文化センター、福祉センター、鹿放ヶ丘センター、地域づくりセンター）「ぐるめまっぷ」の市民へのより広い広報と情報更新を目的に、よつまちLaboが運営する四街道市の飲食店等の応援サイト「よつまちマルシェ」に「ぐるめまっぷ」ページの創設を企画し進めている。</p>
------	---

	[直近2年間の四街道ぐるめまっぷ発行部数] 令和2年度…5,000部 令和3年度…8,000部			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	消耗品の多くについて、自前のもので対応した。 新型コロナウイルス感染症対策のため、有償ボランティアは依頼せず、団体構成員のみの最少人数で店舗の調査などを行った。			
事業費総額	予算	456,000円	決算	354,816円
補助金額	予算	400,000円	決算	319,376円

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載			
	2021版は5000部の配布を行ったが、市役所や店舗等では早期に在庫がなくなる状況であった。市民へ広く広報する目的に対して十分ではなかったと評価している。今年度は、店舗20件や生産農家7件の掲載数の増数や朝市会の紹介等加え内容の充実をはかった。印刷部数も8000部と増やした。 店舗からは、「四街道ぐるめまっぷ」を見て来店した訪問客がいるなどの声を得ている。			
事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。			
	産業振興課農政係より生産農家の紹介を頂き、掲載数を増やすことにつながった。また、JA千葉みらいには、季節ごとの市内生産物表の添削の協力を得て四街道市での生産物年間カレンダーを作成することができた。 よつまちLaboより、「よつまちマルシェ」でのHPでの協働の提案を頂き紙媒体に加えてネット上での案内が可能になった。 計画書にあった商工会、グルメ同好会との協働、協力依頼はコロナ感染症対策等の事由により実施しなかった。			

今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載			
	店舗等の情報更新や企画等の案内はHPで行い、情報の確実性を担保していくと同時に、市内のみならず近隣地域からの四街道市内店舗への集客訪問を図っていききたい。 地産地消を進めるため消費者と生産農家の仲立ちをし、接点を増やしていきたい。			

担当課のふりかえり	(産業振興課)			
	前年度より「四街道ぐるめまっぷ」の内容を充実及び増刷したことにより、市民に対し、更に飲食店・地場産農産物等の周知が図られたと考えます。			

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]

事業報告書類

里 kara

コラボ四街道まとめ

団体名	里 kara
事業名	Y・Y・Countryside ～自然・焚火・音楽のある里山で多世代交流～

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>[内容1] 里山一般開放イベント ツリーハウスのある里山を一般開放し、市民のみなさんが交流できる場をつくった(入場料大人 500 円、子ども無料)。 来場者にはコーヒーや焚き火を使った焼きマシュマロを提供した。 里山ならではの体験会も開催した（薪割り体験や流しそうめん、水鉄砲作りなど）。 地域の作家さんとコラボし、ワークショップ（小物づくり）を開催した。 シンガーソングライターの方をお招きし、里山の自然を生かした音楽コンサートを開催した。 開放日:毎月第1第3日曜日(7/11(日))に地元のこども会を招待し、10/31(日)に里山クッキングを開催し、1/4(火)にこどもルームを招待し、5/16(日)と3/26(土)に音楽コンサートを開催した。)。 場所: Y・Y・NOWSON 対象: 家族連れ・シニア・若者など全世代 来訪者数:</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;"></th> <th style="width: 30%;">特記事項</th> <th style="width: 15%;">来訪者数</th> <th style="width: 15%;">スタッフ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月第1週</td> <td>作家さんとコラボしてワークショップ開催</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>4月第3週</td> <td></td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>5月第1週</td> <td>作家さんとコラボしてワークショップ開催</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">3</td> </tr> <tr> <td>5月第3週</td> <td>音楽コンサート開催</td> <td style="text-align: center;">25</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> <tr> <td>6月第1週</td> <td>雨のため開催なし</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>6月第3週</td> <td></td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>7月第1週</td> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> </tbody> </table>				特記事項	来訪者数	スタッフ数	4月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	7	3	4月第3週		8	4	5月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	6	3	5月第3週	音楽コンサート開催	25	6	6月第1週	雨のため開催なし	0	0	6月第3週		7	2	7月第1週		6	2
	特記事項	来訪者数	スタッフ数																																
4月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	7	3																																
4月第3週		8	4																																
5月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	6	3																																
5月第3週	音楽コンサート開催	25	6																																
6月第1週	雨のため開催なし	0	0																																
6月第3週		7	2																																
7月第1週		6	2																																

	7月11日	地元のこども会招待	15	1
	7月第3週		6	3
	8月第1週	流しそうめん、水鉄砲、シャボン玉作り	16	6
	8月第3週	お盆のため開催なし	0	0
	9月第1週	感染拡大のため開催なし	0	0
	9月第3週		7	3
	10月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	15	4
	10月第3週	雨のため開催なし	0	0
	10月31日	里山クッキング開催	17	5
	11月第1週	別イベント開催（[内容2]参照）		
	11月第3週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	14	4
	12月第1週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	6	3
	12月第3週		5	2
	1月第1週	年始のため開催なし	0	0
	1月4日	こどもルーム招待	18	1
	1月第3週	作家さんとコラボしてワークショップ開催	14	3
	2月第1週	感染拡大のため開催なし	0	0
	2月第3週		7	2
	3月第1週		6	3
	3月第3週	ボーイスカウトとコラボ	20	3
	3月26日	音楽コンサート開催	32	3
	合計		257	66
<p>【実施回数及び来訪者数(令和3年度に発足した団体のため過去実績なし)】 令和3年度…21回、257人</p>				

[内容2]里山整備イベント

草刈りや薪割りなどの作業を、多くの参画を得るためにイベント化した(参加費無料)。

休憩時には備品を使って BBQ をした。

ツリーハウス塗装イベントも開催した。

開催日：毎月第1第3日曜日（11月6日(土)と11月7日(日)はツリーハウス塗装イベントを開催した。）

開催場所：Y・Y・NOWSON

対象：家族連れ・シニア・若者など全世代

参加者数：

	特記事項	参加者数
4月第1週		2
4月第3週		2
5月第1週		1
6月第1週	雨のため開催なし	0
6月第3週		1
7月第1週		1
7月第3週		3
8月第1週		2
8月第3週	お盆のため開催なし	0
9月第1週	感染拡大のため開催なし	0
9月第3週		1
10月第1週		1
10月第3週	雨のため開催なし	0
11月6日	ツリーハウス塗装イベント	8
11月7日	ツリーハウス塗装イベント	13
11月第3週		2
12月第1週		2
12月第3週		1
1月第1週	年始のため開催なし	0
1月第3週		1
2月第1週	感染拡大のため開催なし	0
2月第3週		1

	3月第1週		2																							
	3月第3週		2																							
	合計		46																							
	<p>【実施回数及び参加者数(令和3年度に発足した団体のため過去実績なし)】 令和3年度…18回、46人</p> <p>[内容3]キャンプ事業 里山一般開放イベントや里山整備イベントの運営資金を得るため、Y・Y・NOWSONの土地をキャンプ利用者に有料で貸し出した(通年で随時受付、各回1組限定)。 備品をレンタル品として有料で貸し出した。 場所：Y・Y・NOWSON 利用日と利用人数：</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>4月6日(火)</td><td>12</td></tr> <tr><td>4月30日(金)</td><td>10</td></tr> <tr><td>5月22日(土)</td><td>4</td></tr> <tr><td>5月30日(日)</td><td>10</td></tr> <tr><td>7月17日(土)</td><td>5</td></tr> <tr><td>10月9日(土)</td><td>1</td></tr> <tr><td>11月15日(月)</td><td>12</td></tr> <tr><td>11月17日(水)</td><td>3</td></tr> <tr><td>11月28日(日)</td><td>5</td></tr> <tr><td>12月24日(金)</td><td>11</td></tr> <tr><td>合計</td><td>73</td></tr> </tbody> </table> <p>【利用回数及び利用人数(令和3年度に発足した団体のため過去実績なし)】 令和3年度…10回、73人</p>				利用者数	4月6日(火)	12	4月30日(金)	10	5月22日(土)	4	5月30日(日)	10	7月17日(土)	5	10月9日(土)	1	11月15日(月)	12	11月17日(水)	3	11月28日(日)	5	12月24日(金)	11	合計
	利用者数																									
4月6日(火)	12																									
4月30日(金)	10																									
5月22日(土)	4																									
5月30日(日)	10																									
7月17日(土)	5																									
10月9日(土)	1																									
11月15日(月)	12																									
11月17日(水)	3																									
11月28日(日)	5																									
12月24日(金)	11																									
合計	73																									
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p>																									
事業費総額	予算	678,370円	決算 678,370円																							
補助金額	予算	452,000円	決算 452,000円																							

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p>		
	<p>里山一般開放イベントを開催することで、地域に住んでいる子どもからシニアの方まで、幅広い世代の方が交流する場を提供できた。</p>		

	<p>ボーイスカウトや地域の作家の方々とコラボし、子どもや若者が楽しめるコンテンツを提供できた。</p> <p>蔵の図書館とコラボイベントを開催することで、お互いの集客に貢献できた。</p> <p>家にこもりがちな人でも、地域とかかわるきっかけになり、さらに、地域住民の交流により、日常で困ったときや災害時などに助け合えるつながりができたと考えられる。</p> <p>里山来訪者が自然に触れることで、溜まりがちなストレスを解消していただくことができ、里山の魅力を体感してもらうことで、里山保全に協力してくれる人を増やすことができた（スタッフが6人増え、19人となった）。</p> <p>里山での交流を通して、子どもが人とのつながりの大切さを学んだり、生物の多様性や自然の尊さを学ぶきっかけにもなったと思われる。</p> <p>里山一般開放イベントの来訪者の中には、リピーターになった人や、SNSで知って市外から来る人もいた。</p> <p>里山一般開放イベントの来訪者は323人（スタッフ含む）、キャンプ利用者は73人、里山整備イベントの参加者は46人であった。</p> <p>1年を通して、スタッフを含め442人が里山の魅力に触れることができた。</p>
<p>事業の課題、担当課との関わり等</p>	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p> <p>[事業の課題]</p> <p>広報・宣伝の面で課題があると考えている。作家さんとコラボしたワークショップを毎月企画し、それを SNS やインターネットで宣伝することで、さらに里山一般開放イベントの来訪者を増やしていきたい。</p> <p>[担当課との関わり]</p> <p>市政だよりにイベントの宣伝を載せていただいたことで、集客への効果があった。</p>
<p>今後の事業展開</p>	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p> <p>今回の事業により、一定数の地域住民に里山の大切さを伝えることができた。作家さんとコラボしたワークショップと、シンガーソングライターの方による音楽コンサートが特に好評だったため、開催日を増やし、より多くの方に里山の魅力に触れてもらうことを目指す。</p> <p>SNS での発信力を強化し、里山一般開放イベントの来訪者数を増やすことで、運営資金を確保したい。</p> <p>定期的にスタッフ向けにチェーンソーの使い方の講習会などを開き、里山を保全する技術を身につけられるようにする。</p>

	ボーイスカウトや蔵の図書館とコラボした企画を練り、さらに集客につなげたい。
--	---------------------------------------

担当課のふりかえり	(課)

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]



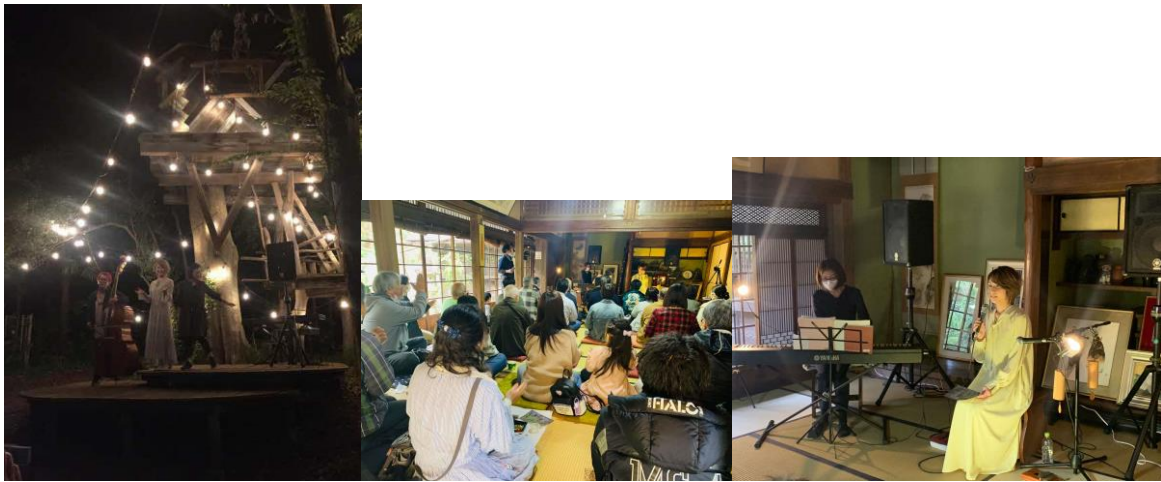
里山一般開放イベント
流しそうめんの様子



里山一般開放イベント
里山クッキングの様子



里山一般開放イベント
作家さんとコラボしたワークショップ（小物づくり）の様子



里山一般開放イベント
シンガーソングライターのゆうなみさんによる音楽コンサートの様子



里山一般開放イベント
ボーイスカウトとコラボ



里山整備イベント
ツリーハウス塗装イベントの様子



キャンプ事業
キャンプ利用の様子

事業報告書類

みんなでつつみこむあたたか地域づくりプロジェクト
あたたかおひさんぽ実行委員会

コラボ四街道まとめ

団体名	みんなでつつみこむあたたか地域プロジェクト あたたかおひさんぽ実行委員会
事業名	あたたかおひさんぽマップづくりを通したつながりプロジェクト

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	障害者支援課・子育て支援課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>① 親子おさんぽ会の開催</p> <p>子どもと一緒に、保護者同士、地域の方、福祉団体利用者など様々な人が気軽に参加でき、四街道の豊かな自然、公園、お店、居場所を楽しみながらお散歩できる「親子おさんぽ会」を開催しました。心地よくお散歩しながら自然な形でつながりづくりを行いました。</p> <p>Facebook や市政だより、チラシを通じて参加者を募集していき満員になる回もありました。</p> <p>場 所：市内全域 回 数：10 回実施 時 間：イベント毎に設定 参加費：200 円</p> <p>（参加費は全て 200 円ですが、一部 500 円、600 円の参加費もあります。一部資金は報償費などとして自己負担金で支払いしました。）</p> <p>人 数：イベント毎に設定 対象者：市民等（年齢制限なし）</p> <p>6/2 総合公園 4組 （大人4名 子ども5名） 7/10 たろやまの郷～ムクロジの里 8組 （大人10名 子ども14名） 7/24 ナイトハイク 9組 （大人14名 子ども20名） 8/3 わろうべの里～どんぐりの森 3組 （大人3名 子ども5名） 10/19 大日農家の畑 5組 （大人6名 子ども5名） 11/3 千代田調整池 5組 （大人6名 子ども8名） 11/4 中央公園（ピース） 2組 （大人2名 子ども2名） 11/20 亀崎（はちみつ） 6組 （大人8名 子ども13名） 12/13 蔵の図書館 8組 （大人8名 子ども8名） 2/23 鹿放ヶ丘ふれあいセンター 2組 （大人2名 子ども5名）</p>
-------------	---

	<p>② 子育てまちづくり座談会</p> <p>おさんぽ会で気づいたことや子育てに関する情報を共有する場として「子育てまちづくり座談会」を開催しました。あたたかおひさんぽ実行委員会ははじめ親子おさんぽ会の参加者、興味のある方などが気軽に足を運べるよう、Facebook、チラシで情報発信して開催しました。</p> <p>場 所：わろうべの里、他会場</p> <p>日 程：8回開催</p> <p>時 間：約 1-2 時間/回</p> <p>対象者：あたたかおひさんぽ実行委員会・親子おさんぽ会参加者など</p> <p>参加費：なし</p> <p>人 数：約 10 人/回</p> <p>③ 活動記録や広告媒体としての動画撮影</p> <p>親子おさんぽ会のコースの中で、地域の方が自由に散策できるコースを動画撮影しました。動画にすることで場所やお散歩コースの実際のイメージが目で見えてわかるようになりました。四街道の良さが動画でよく伝わり「行ってみよう」というきっかけづくりになりました。</p> <p>④ web サイトの作成</p> <p>内 容：</p> <p>子育て中の親が必要としている情報を集め、サイトを作成しました。親子おさんぽ会参加者にアンケートを取ったり、公園やあそび場、居場所に来ている保護者の声を聞いてニーズを知り、子育てまちづくり座談会やアンケートを通して実行委員会内で調査をし情報を集め作成しました。</p> <p>【サイトの内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 公園・あそび場 ② 自然体験・レジャー ③ おさんぽマップ (LINK) ④ おさんぽ動画 ⑤ 福祉に関するサービス ⑥ 子育てに関するサービスと施設
<p>事業内容変更</p>	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p> <p>○親子おさんぽ会の開催</p> <p>【予定】年 13 回実施予定</p> <p>【変更】新型コロナウイルス感染拡大のため 8 月,9 月,1 月は中止にしたため、10 回開催しました。</p>

	<p>○子育てまちづくり座談会 【予定】座談会 10 回開催予定 【変更】新型コロナウイルス感染拡大のため 8 月 9 月はお休みにしたため、8 回実施しました。</p> <p>○Web サイトの作成 子育てのシーン別の作成が間に合いませんでした。引き続きまとめていきます。</p>			
事業費総額	予算	461,400 円	決算	461,499 円
補助金額	予算	415,000 円	決算	415,000 円

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p> <p>① 親子おさんぽ会の開催</p> <p>13 回実施予定で企画した親子おさんぽ会は新型コロナウイルス感染拡大により 3 回は中止したもののほぼ予定通りに進めることができました。</p> <p>子どもと一緒に親子で参加していただき、四街道の豊かな自然、公園、施設、居場所を楽しみながらお散歩できる「親子おさんぽ会」は改めて四街道の良さを感じることができたことと思います。</p> <p>おさんぽ後には、参加者の交流の場を設け、おすすめのお店や遊び場などお互いの情報をシェアできたのもよかったです。</p> <p>市政日より、Facebook、チラシを通じて周知し、たくさんの親子が参加してくれました。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大により 8/22,9/10,1/30 は中止にしました。</p> <p>添付資料【資料 1～5】を参照ください。</p> <p>配布したチラシ</p> <p>【資料 1 親子おさんぽ会チラシ前期】</p> <p>【資料 2 親子おさんぽ会チラシ後期】</p> <p>【資料 3 あそぼーよサイト完成とおさんぽイベントチラシ】</p> <p>アンケート 【資料 4 親子さんぽ会アンケート】</p> <p>報告 【資料 5 親子さんぽ会報告書】</p> <p>② 子育てまちづくり座談会</p> <p>子育てまちづくり座談会は実行委員も参加者の一員として開催しました。</p> <p>親子おさんぽ会に参加してくださった方が来てくださり、気づいたこと</p>
-------------	---

や子育てに関する情報を共有する場になったと思います。

新型コロナウイルス感染拡大により 2 回中止しましたが、ほぼ対面で実施できました。

添付資料【資料 6】を参照ください。

報告【資料 6 子育てまちづくり座談会報告】

③ 活動記録や広告媒体としての動画撮影

親子おさんぽ会 10 回開催のうち 6 回動画撮影をしました。

動画にすることで、場所やお散歩コースのイメージが目で見えてわかるようになりました。四街道の良さが動画によりよく伝わるようになったと思います。

撮影したコースは地域の方が自由に散策できる散策路で、web サイトに掲載しました。

動画を見ることで「行ってみよう」というきっかけづくりになるのではないのでしょうか。

報告 【web サイト内にて掲載】

④ web サイトの作成

子育て親子が必要としている情報を集め、サイトを作成しました。

サイト名は『よつかいどう子育てガイドあそぼーよ』です。URL は下に載せましたのでご覧ください。

子育てで一番良く行く公園についてはママたちから集めた情報を入れたことにより楽しさが何倍も増えました。ベビーカーでおさんぽしやすいところ、自転車の練習がしやすいところなど情報が満載です。

【サイトの内容】

- ② 公園・あそび場
- ③ 自然体験
- ④ おさんぽマップ (LINK)
- ⑤ おさんぽ動画
- ⑥ 福祉に関するサービス と施設
- ⑦ 子育てに関するサービスと施設

報告 【よつかいどう子育てガイドあそぼーよ URL】

<https://www.asobo-yo2022.com/>

事業の課題、担当課との関わり等	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p> <p>【事業の課題】</p> <p>子育てまちづくり座談会は集まりやすいわろうべの里にしましたが、小さなお子さんを連れての座談会は参加しづらかったのではないかと感じました。お子さんを連れての参加者がいない日もありました。次年度はお子さんも楽しい時間となるよう、未就園者児のおさんぽ会を開催し、その中で交流の場を設けていきたいと考えています。</p> <p>【担当課との関わり】</p> <p>市役所の正面にはチラシを置かせていただきました。子育て支援センターの方にもチラシを持っていき、自分たちで説明し置かせていただきました。各イベントは参加者を少なめにしていたので市政だより・Facebookでの周知でちょうどよかったです。</p> <p>今後もサイトの更新のために子育て世代の保護者と繋がっていきたいと思いますので、チラシなどの配布箇所の紹介など協力いただける範囲でお願いできればと思っています。</p>
------------------------	---

今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p> <p>親子おさんぽ会では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、イベントを中止した時もありましたが、天候にも恵まれ、web サイトオープンにたどりつけました。</p> <p>親子おさんぽ会は外なので開催しやすく、参加者が少ない時もありましたが、たくさんの方に参加していただきました。また親子で参加することで、四街道市内の子育てに関する団体のパンフレットを配布して周知し、親子と団体を繋げることができました。</p> <p>コロナ禍でイベントがなく、人と会う機会が減っている中、「イベントを開催してくれてうれしい」「気になっていたけどなかなか行けなかった」などの声をいただき開催して良かったなと思っています。</p> <p>動画は四街道の自然の豊かさが伝わる素晴らしいものができました。来年度もコロナ前のようにはいかないと思うので、お散歩に役立ててもらえたらうれしいなと思いました。</p> <p>サイトの方は今年度集めた情報をまとめ、何度も見直して完成しました。公園に通ってないとわからない情報がいっぱい詰まっています。ママ目線でうれしい内容となっていますので公園巡りをしてほしいなと思います。</p> <p>今後ですが、随時サイト情報を更新できるよう四季ごとの写真、イベント情報発信、やってみようのページに追加していきます。月1回の「おや</p>
----------------	--

	<p>こおさんぽ会」(未就園児親子)、隔月の「おさんぽ会」を開催し、四街道の魅力伝えたり、親子同士の交流の場を設けていきます。</p> <p>またイベント情報の発信は団体や企業の URL を載せるにあたり、イベントの広告料を頂くなどの検討もし、継続して新しい情報を四街道市民の皆さんに届けられるようにしていきます。</p> <p>最後に令和 3 年度もコロナ禍でいろいろなイベントが中止となりました。来年度はできることから少しずつ再開し、街に笑顔や笑い声が響くといいなと思っています。コラボ四街道事業を終え、たくさんのつながりを持つことができました。今後も活動していきますのでどうぞよろしく願いいたします。</p>
--	---

担当課のふりかえり	<p>(障害者支援課)</p> <p>支援の必要なお子さんを養育されているご家族も含め、子育てをしている家族と地域とのつながりの場として、窓口等にて周知することができた。</p> <p>今後も、パンフレットや随時情報提供いただければ、窓口での広報物の設置、療育関係機関への配布等によって、より効果的な周知が期待できるので、今後も継続的な情報提供をお願いしたい。</p>
	<p>(子育て支援課)</p>
	<p>パンフレットを配架することにより、子育て家庭に対して効果的な広報ができました。</p>

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
----------------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]

事業報告書類

よつかいどう野外保育さとのたね

コラボ四街道まとめ

団体名	よつかいどう野外保育さとのたね
事業名	里山子育てと温かな繋がりを地域に届けるプロジェクト

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	[担当課] [関係課] 保育課、子育て支援課、社会教育課、社会福祉課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p><u>1. “自然と人” “自然と子育て” を結ぶミニパンフレット・冊子制作</u></p> <p>制作期間：2021年4月～7月</p> <p><ミニパンフレット> タイトル：きみのとなりで ～子どもと自然を感じてみたら...～ A5 カラー 10 ページ 発行部数：1000 部 発行日：2021年7月1日</p> <p>里山での親子の楽しみ方、自然と子どもの関係性など、気軽に手に取って読みやすいようにまとめた手引書</p> <p><冊子> タイトル：ね、ほら み～んな だいじょうぶ B5 カラー 18 ページ 発行部数：2000 部（1000 部 増刷） 発行日：2021年9月1日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・四季の恵みや手仕事など暮らしに根差した情報 ・自然の中での子どもの心の動き ・子育てに悩んだときに心を解きほぐすための視点 <p>など、自然の中での子育てをより深く知る為の冊子</p> <p>【資料1】ミニパンフレット・冊子、配布先一覧</p> <p><u>2. オープンデイウィーク（一人一人に寄り添う親子自然体験会）の開催</u></p>
------	---

里山紹介と里山子育てを体感してもらう為、オープンデイウィークを開催。
各イベントや散歩を通して、日頃の子育ての分かち合いや
ミニパンフレット・冊子の配布・紹介も実施。

<2021年9月>

秋のオープンデイウィーク開催（3日間）

※2500枚のチラシを作成、7月より各所に配布

【資料2】チラシ配布先一覧

【資料3】配布したチラシ

①お米マラカスづくり

2021年9月28日 たろやまの郷 9:45~13:15

対象：1歳半~4歳の親子 参加：3組（申込：5組）

②お月見団子づくり

2021年9月29日 たろやまの郷 10:00~12:00

対象：0歳~1歳半の親子 参加：5組（申込：5組）

③竹ゼリーを食べよう

2021年9月30日 四街道プレーパークどんぐりの森 9:45~13:15

対象：1歳半~4歳の親子 参加：2組（申込：5組）

④葉っぱでスタンプをしよう ⇒ 台風の為中止

2021年10月1日 四街道フォレスト南波左間の森 9:45~13:15

対象：1歳半~4歳の親子 申込：3組

※当日は中止になってしまった為、10/15 保育公開日にて同内容のイベントを実施（参加：2組）

<2022年3月>

春のオープンデイウィーク開催（3日間）

※2500枚のチラシを作成し、1月より各所に配布

【資料4】チラシ配布先一覧

【資料5】配布したチラシ

①春の野草天ぷらを食べよう

2022年3月1日 四街道プレーパークどんぐりの森 9:45~13:15
対象:1歳半~4歳の親子 参加:5組(申込:7組)

②桃の節句飾り作り

2022年3月3日 たろやまの郷 9:45~13:15
対象:1歳半~4歳の親子 参加:7組(申込:9組)

③よもぎねじりパンを作ろう

2022年3月4日 四街道フォレスト南波左間の森 9:45~13:15
対象:1歳半~4歳の親子 参加:4組(申込:9組)

※参加地域の内訳:

四街道市16組、千葉市4組、佐倉市3組、成田市2組、八千代市1組
計26組

<関係機関との役割分担>

※イベントにおける場所の提供

四街道プレーパークどんぐりの森、四街道フォレスト南波左間の森、
たろやまの郷

3. 里山ワークショップ

(孫育て世代と子育て世代、育ちの垣根を超えた繋がり与交流)

対象年齢の幅を広げた里山ワークショップを開催。

※チラシはプロジェクトメンバーが作成し、提示やSNSにて募集を実施

【資料6】配布したチラシ(オープンアート)

【資料7】配布したチラシ(縄ない)

<2021年10月>

自然の中で子どもと創るオープンアート

※緊急事態宣言を受け、8月→10月に延期

2021年10月31日 たろやまの郷 10:00~12:00

対象:年小~小2の親子(小学生は保護者の付き添いなしでも可)

参加:13人

<2021年12月>

	<p>おじいちゃんの手仕事・縄ないで正月飾りを作ってみよう 2021年12月18日 たろやまの郷 10:00~12:00 対象：0歳～小学生までの親子 参加：10組15人 （連携団体：四街道フォレスト）</p> <p>※参加地域の内訳： 四街道市11組、千葉市4組、佐倉市5組、市川市2組、栄町1組 計23組</p>			
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p> <p>【開催日変更】 ・自然の中で子どもと創るオープンアート 緊急事態宣言を受け、8月に予定していたイベントを10月に延期</p> <p>【冊子増刷】 ・2021年10月に1000部増刷 理由①冊子の評判が良く、想定していたよりも早く在庫が少なくなってしまったため。 理由②コロナ禍の中、孤立している親子が増えている現状も踏まえ、今後のイベントや活動の中でも引き続き活用し、学校関係者にも目にして頂けるよう配布する為</p> <p>【中止】 ・10/1 オープンデイが台風の為中止。 10/15 保育公開日にて同内容のイベントを実施</p>			
	事業費総額	予算	588,243 円	決算
補助金額	予算	500,000 円	決算	500,000 円

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p> <p><u>1. “自然と人” “自然と子育て” を結ぶミニパンフレット・冊子制作</u></p> <p><ミニパンフレット> 配布数：約710部（令和4年3月時点）</p> <p>プロジェクトメンバーの母たちが、内容・デザイン全てを制作。 現在進行形の自身の子育てと重ねながら、身近にある自然に触れることの良さや、少し視点を変えることで、日々の育児にも”ほっ”とできる時間を</p>			

持ってもらえるような内容を工夫した。

<冊子> 配布数：約 702 部（令和 4 年 3 月時点）

視覚的アプローチからも、子どもたちのイキイキとした姿を伝えたく、市内在住のデザイナー・イラストレーターと共に制作。子どもの長期的な成長の中で、世代を超えて読んでいただける一冊になった。

どちらも、イベント参加者に配布。

当日のイベント内容や、子育ての分かち合い、自然の中での子どもたちの様子とリンクする内容となっております

「何度も読み返し、自分の子育てにも取り入れたい」

「悩んでいるのは自分だけではない、と少し安心できた」などの声もいただいた。

イベント以外でも、子どもに関わる施設や、賛同いただける市内外の店舗等への配布、希望者に手渡しをする機会も設け、増刷も行った。

地域に少しずつ広がっていけるよう、今後の活動でも引き続き活用する予定。

【資料 8】参加者アンケート

2. オープンデイウィーク（一人一人に寄り添う親子自然体験会）

計 6 回 開催

コロナ禍で、なかなか自由に外で遊べない日々が続く中

「子どもも大人も、のびのびできて有難かった」という声を多数いただいた。

会場となった里山についても、

“こんな場所があるなんて、初めて知った”

“あることは知っていたが、入ったことが無かった”

という方も多く、「里山を市民に開くこと」「四街道の新たな魅力発見」のきっかけ作りにもなった。

また、自然の中でどんな風に心が動いたのか、ひとりで抱えていた悩みや不安など、毎回あたたかい雰囲気の中で「分かち合い」の時間を設けた。心と体を解放したリラックスできる時間となり、「また来たい」という声

も多くいただいた。

【資料 8】参加者アンケート

3. 里山ワークショップ（孫育て世代と子育て世代、育ちの垣根を超えた繋がりと交流）

計 2 回 開催

①自然の中で子どもと創るオープンアート

市内在住アーティストをナビゲーターに、「自然と人」を繋ぐアートイベントを開催。

ベニア板を 2 枚用意し、敢えてテーマは設けずに参加者全員で自由に絵を描いた。また、任意で各自持参した T シャツ・トートバックなどにも色付けをし、自分だけの作品を完成させた。

大人達も、自身の作品制作を楽しみながら、のびのびと描く子ども達の姿を見守ることができた。

コロナ禍で我慢が続く子どもたちの、はじけるような笑顔が印象的だった。

子ども達からは「もっとやりたい」「また参加したい」「自分で描いた絵のバックができてうれしい」「楽しかった」との感想、

保護者からは「自然の中で自分を表現するイベントにまた参加させたい」との感想をいただいた。

「自然と人」のみならず、「人と人」も繋がったイベントとなった。

②おじいちゃんの手仕事・縄ないで正月飾りを作ってみよう

とても寒い日だったが、募集の 10 名を上回る 15 名が参加。

四街道フォレストより 7 名の講師が参加してくれた為、初めて縄ないをする参加者も集中して取組めた。

講師たちの、熱のある指導と子ども達への優しさがその場を温かく包み、参加者の大人も子どももリラックスできる時間となった。

正月飾りの意味や、たろやまの郷の田んぼで作られた稲わらを活用していることを伝えることで「伝承的な手仕事」を知り、

	<p>世代を超えた交流を通じて、多様性や見守る育児の安心感を体感できるイベントとなった。</p> <p>イベントは四街道市外からの参加者も多く、近隣市にも、里山の魅力・里山子育てを広く伝えていくきっかけになったと感じている。</p> <p>今後はさらに、より多くの市内の方に参加して頂ける機会を考えて行く予定。</p> <p>【資料 8】参加者アンケート 【資料 9】イベント写真</p>
<p>事業の課題、担当課との関わり等</p>	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p> <p><事業の課題></p> <p><u>・ミニパンフレット、冊子について</u></p> <p>直接お渡しできる方、自ら手に取ってくださる方だけではなく、「孤育て」に苦しんでいたり、助けを必要としている方々にもお届けできる方法を検討したい。</p> <p>今回、民生委員の皆さまにも協力をいただいたが、可能であれば、配布時の感想や状況などの情報もピックアップできたら大変有難く思う。</p> <p><u>・オープンデイイベントについて</u></p> <p>6～8組の定員を予定していたが、コロナ禍で開催に慎重な時期でもあり状況を見て定員を減らすなど、対応に苦慮した側面もあった。</p> <p>また、体調に関する参加基準もあった為、申込数は多くても、当日来られない方が多い日もあった。</p> <p>その点も踏まえ、今後も単発的なイベントだけではなく、これから続く子育て期間に継続的な関わりを持てるような方法を検討したい。</p> <p><u>・広報について</u></p> <p>広く知っていただく為に、今後は掲示の形も多くとり、SNSをさらに活用するなどの工夫をしていきたい。</p> <p><担当課との関わり></p> <p>主に政策推進課を通し、冊子・ミニパンフレット・チラシの配布、電子回覧板への掲載など、広報面で多くの協力を頂いた。</p>

	<p>保育課カウンターへの冊子設置、市内の全保育園、民生委員、市民大学講座へも配布して頂くことができた。</p> <p>細かい会計ルールについての疑問点を都度確認でき、予算変更についてもメールでの届出が出来るようになり手続きへの負担が減った。</p> <p>問合せに対しての回答も速く大変助かり有難かった。</p> <p>今後の活動でも、市に協力を頂きながら地域づくりを考えていきたい。</p>
--	---

今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p> <p>コロナ禍ということもあり、乳幼児期の親子が安心して過ごせる場・交流できる場が、より必要とされていることを感じた。</p> <p>里山では道路や車、子どもの泣き声を気にかける必要が少ない為</p> <p>“ 親自身がとてもリラックスして過ごすことが出来た ”</p> <p>“ 子どもがのびのびと過ごす姿を見ることができた ”</p> <p>というご意見と共に、</p> <p>“ 親子の交流の場が減り、母同士の繋がりも作りづらい日々なので有難い ” 等の声もいただいた。</p> <p>以下2点を柱として、今後の事業展開を検討していく予定。</p> <p><u>①子育ての幸福感を高める</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も子育てを楽にするヒントや視点を、冊子を活用することで発信し続ける ・「親子にとって安心できる居場所」「親子同士をつなぐ場所」となるような場作りを目指す <p>里山での継続的な活動として、散歩や分かち合い、イベントを設ける</p> <p><u>②子どもをあたたかく見守ってくれる環境作り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と繋がりながら子育てができるよう、他団体・多世代と出会う場所作りとして、休耕田を利用した稲作活動などを行う ・子どもを「地域の宝」として、市全体で子育てを見守るきっかけとなるような講演会や、写真展の企画を行う
----------------	---

担当課のふりかえり	(社会教育課)
	市民大学講座にて、イベントのチラシ配布依頼を受け、配布協力を行った。チラシの配布に関しては、受講生の平均年齢が 73.13 歳 (R3) であり、年齢層にあった内容であるかを重点としている。
	(社会福祉課)
	多種多様な相談の窓口である民生委員がパンフレットの配布をすることによって、当事業のニーズに合った方々に情報を提供できたのではないかと考える。
	(子育て支援課)
	パンフレットを配架することにより、子育て家庭に対して効果的な広報ができました。
(保育課)	
保育課窓口に冊子を設置することにより、よつかいどう野外保育さとのたねの事業について、教育・保育のニーズをもつ子育て世帯に対し、効果的に広報することができた。	

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]

事業報告書類

ひみつのおしゃれ工房

コラボ四街道まとめ

団体名	ひみつのおしゃれ工房
事業名	ひみつのおしゃれ工房 リメイクファブリックスタートアップ事業

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>〔内容〕①備品購入 裁ちばさみ 2丁 職業用ミシン 2台 ローリーカッター 2つ カッターマット</p> <p>②展示会出展 合同展示会 rooms に出展しました。</p> <p>③パンフレット、チラシの制作 【パンフレット制作】 事業者用にリメイクファブリックを説明したパンフレットを制作しました。 配布対象：アパレル事業者など 配布方法：取引先など繋がりのある業者や今後繋がりを 持ちたい業者に事前に確認して配送する。 目的：リメイクファブリックの仕事を獲得するため</p> <p>【チラシ制作】 市民用に工房について説明したチラシも制作しました。 配布場所：市役所、市内の保育園、その他市内の協力団体、 協力店 配布対象：市民 目的：市民に事業について知ってもらうため</p>			
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p>			
事業費総額	予算	566,000 円	決算	566,491 円
補助金額	予算	500,000 円	決算	500,000 円

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p> <p>① これまで内職さんにはできなかった作業が出来るようになりました。工房が休みの日に内職さんから内職さんに直接仕事を渡せる場面もできたので、効率が上がったことと、内職さん同士のつながりができてよかったです。</p> <p>② コロナ禍でもあったので、オンライン展示会に参加の予定でしたが、オンライン展示会は基本的に販路を持っている事業者向けだったので、リアル展示会への出展に変更しました。</p> <p>これまでの成果を初めていろいろな人に見てもらうことが出来、様々な意見を頂く貴重な体験ができました。</p> <p>③ 市民用チラシが 10,000 部の予定でしたが、予算上 4,000 枚になりました。</p> <p>デザイン費が 50,000 円の予定でしたが、複雑な事業内容を分かりやすくするためにイラストを多く入れることにしたので 90,200 円になりました。</p> <p>事業内容が珍しく、人に説明することが難しかったのですが、パンフレットが出来たことで、説明がしやすくなりました。</p> <p>市民用のチラシも事業全体を詳しく載せられたので、市民の皆さんに伝えやすくなりました。</p>
事業の課題、担当課との関わり等	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p> <p>① 主婦の手作り品から製品にするために、プロの道具を使うことは第一歩でしたが、これから内職さんに道具の使い方を丁寧に教えていく必要があると感じています。</p> <p>② 主に小売り業者を相手にした展示会だったので、素材を作る技術を紹介するには違う展示会にして、展示の仕方も工夫が必要だと感じました。</p> <p>③ パンフレット、チラシともに枚数に限りがあるので、効果的に配れるようによく検討したいと思います。</p>
今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p> <p>① 内職さんから内職さんに直に仕事を回してもらえるようになると、とても効率が上がり、工房の負担が減ることが分かりましたが、見えないところで生産が進んでしまうと、ミスがあったとき、上がりが悪いときに先方様に迷惑をかけてしまい、今後の仕事にも影響が出てしまいます。</p> <p>そのため、今後は一人ひとりに仕事を丁寧に説明する仕組み、道具の管理、使い方を伝える仕組みなどを整えていきたいと思っています。</p>

	<p>② 次年度は素材を探している人が見に行く展示会に出展したいと考えています。</p> <p>また、オリジナル商品でも反響が多かったものを精査して将来的に小売業者に卸売できる商品を作れるように、マルシェなどで商品企画の経験を積んでいきたいです。</p> <p>③ 【事業用パンフレット】</p> <p>パンフレットをうまく活用してしっかりとリメイクファブリックの仕事獲得に繋がりたいです。</p> <p>又、今回は初めてで作品の写真が少なくなってしまったので、今後の為に製作した製品の写真を撮りためて次回に生かしたいです。</p> <p>【市民用チラシ】</p> <p>お客様の意見をなるべく取り入れて、地域の皆様の洋服、園グッズなどの繊維製品の困りごとに対応できるようにしていきたいです。</p> <p>又、古着の回収など協力者を増やすことにもつなげていきたいです。</p>
--	---

担当課のふりかえり	(課)

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
---------------------	--

事業報告書類

四街道みらい会

コラボ四街道まとめ

団体名	四街道みらい会
事業名	四街道旭ヶ丘子ども食堂開催による未来創造事業

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	産業振興課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>地域コミュニティの創造と、子育て支援、食育、孤食の減少を目的にプロの料理人が監修するお弁当を、旭・山梨・みそら小学校に通う児童とその家族に安価に提供した。</p> <p>開催日は毎月第4日曜日、場所はビストロミウラにて作成し配布場所は他にみそら自治会館でも行った。</p> <p>参加人数は回/300～350人程度で、年間通じての総参加人数は3,110食。4月から9回の開催だったので、平均345人の参加となった。</p> <p>また、7月には地域のお祭りも新型コロナウイルスの影響で中止となっていることから、独自で小さな縁日を子供食堂の開催日に行った。</p> <p>縁日では金魚すくい、スーパーボールすくい、ヨーヨー釣り、フランクフルトや焼き鳥などを提供し、参加した子供たちは浴衣を着て参加し、イベントのなくなってしまった夏休みに対しての活動も行った。</p>			
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p> <p>感染症対策の為、毎月開催の予定だったが、8、9、2月の3回は中止とした。</p> <p>利用者が増加するに係り炊飯器が多く必要になったため、各家庭からの持ち寄り炊飯器を集めて利用していたが、電力消費の限度を超えブレーカーが落ちてしまうため、ガス釜を購入することとした。</p>			
事業費総額	予算	1,233,380 円	決算	1,323,986 円
補助金額	予算	500,000 円	決算	500,000 円

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p> <p>回数を重ねるごとに、地域の人から広く認知され参加者、ボランティア、募金、協賛とすべてが上向く結果となった。各開催後に利用者からは、感謝やお礼の電話もあり、小学校を卒業する家庭から手紙が届くなど、必要な家庭にもしっかりと届いていることを確信できた。</p>		
-------------	---	--	--

	<p>運営者側の地域のコミュニティに入り込むハードルを下げる役割も果たし、子育て家庭がより住みよい街になる一助となったと感じる。</p> <p>親の子育てへの負担の軽減することができた。</p> <p>子ども食堂にお弁当を取りに来る時に学校が休みの日でも友達と会うことが出来たり、親同士も顔を合わせることでコミュニティの拡大も達成された。</p> <p>受け渡し時間にはお弁当を取りに来る親子が静かになってしまった商店街を歩くことによりまちが賑やかになり、地域に活気をもたせたことで安心安全なまちづくりにもつながった。</p> <p>プロの料理人が中心となって調理し、提供する事で、食への興味を持ってもらうことができ、それを享受することができ、さらには地域に愛着を持つ子どもが増えたと感じる。</p> <p>実際に利用者からは、開催後にお礼の電話が来る事も多く、3月には小学校を卒業した児童の親からお礼の手紙と寄付も頂いた。</p> <p>多くの目的を達成するための一つの手法として、子供食堂という形で開催しているが、地域の活性化、新規コミュニティの創造、孤食や子育て支援、困窮家庭への支援などの一助となったと自覚している。</p> <p>補助金について多くのウェイトを占めていたホームページについては、毎回の開催の受付システムを構築し、多くの注文に対してのスムーズな受付と数量の集計に役立った。</p>
<p>事業の課題、担当課との関わり等</p>	<p>事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。</p> <p>事業の課題</p> <p>運営は至って順調であり、差し当たって大きな問題点はないが、参加者の増加や、コロナ終息後に人を集めての開催の方法は検討していかなければならない。現在はお弁当だから人数が多いという意見もある中で実際に対面で開催した場合、何名の参加者が来るのかわからないのが現状である。ただ、22年度から始める「みらい農園」は広大な敷地があるのでそこで開催するという案も現在は検討している。</p> <p>市との関わり</p> <p>市から、国の支援制度などの情報を頂いて申し込んだりした。私たちが知らない支援制度などについて、今後も情報提供を頂ければと考えている。</p>

今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載
	22年度の大きな新規事業として「みらい農園」を計画している。農園で栽培したものを食堂で利用したり、販売することで収入を得て事業資金に役立て、自らがお金を生み出すシステムを構築することを目的とする。また、徐々に地域のシニア世代から子供までが畑という場を通じて新しいコミュニティも作っていく。

担当課のふりかえり	(産業振興課)
	地産地消推奨のため、四街道朝市を紹介させていただきました。

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
----------------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付]